

大学コンソーシアム京都の事業データ収集と  
事業運営への活用について（報告）  
資料集

目次

|                                           |    |
|-------------------------------------------|----|
| 【資料1－1】9事業の概要・・・・・・・・・・・・・・・・             | 1  |
| 【資料1－2】9事業におけるデータの収集状況について・・・・・・・・        | 2  |
| 【資料2】9事業において現在実施しているアンケート調査結果（満足度）について・・・ | 3  |
| 【資料3】参加者アンケートの共通項目について・・・・・・・・            | 10 |
| 【資料4】「大学コンソーシアム京都 事業に関するアンケート」について・・・     | 11 |
| 【資料5】加盟校に対するアンケートと検証・・・・・・・・              | 46 |
| 【資料6】加盟校および加盟団体と共有する事業データ・・・・・・・・         | 51 |
| 【資料7】財団ホームページに掲載する事業データ・・・・・・・・           | 53 |

## 9事業の概要

| 事業名                        | 開始年度 | 事業概要                                                                                                                                                                                                  | 参加者数（2014年度実績）                            |
|----------------------------|------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------|
| 単位互換                       | 1994 | 他の大学・短期大学において修得した授業科目の単位を自大学の単位として修得したものとみなされる制度です。大学コンソーシアム京都では、前身の「京都・大学センター」が発足した1994年から本制度を運用しており、現在では約50校の加盟校と協定を締結し、多くの学生が履修しています。                                                              | 5,287人                                    |
| インターンシップ                   | 1998 | 大学における学びの一環として位置づけ、実体験と教育研究の融合による「学習意欲の喚起」「高い職業意識の育成」「自主性・独創性のある人材育成」を目的とした教育プログラム（コーオペ教育）として単なる就業体験にとどまらず、実践から「働く」を考え、社会人基礎力を育成するカリキュラムを持ったキャリア教育として、受講生からも高い満足度を得ています。                              | 432人                                      |
| 京都学生祭典                     | 2003 | 大学の枠を越えた京都の学生が、経済界・行政・地域・大学と連携を図った上で「学生のまち 京都」を社会へ発信し、さらに京都地域の活性化に繋げ、新しい魅力を創出することを目指しています。10月に平安神宮・岡崎公園一帯で開催される本祭に加え、事前のプレイベントや留学生との国際交流活動、オリジナル創作おどり「京炎(きょうえん) そでふれ！」の普及活動を通じた地域交流活動等の継続した活動を行っています。 | 504人（実行委員）<br>995人（おどり手）<br>118,510人（来場者） |
| 京都から発信する政策研究交流大会（政策研究交流大会） | 2005 | 政策研究交流大会は都市が抱える問題・課題を見つけ、それを解決するための研究を行う学生が日ごろの研究成果を発表する場として、2005年度より始まり、2015年度で11回目を迎えました。例年の「都市政策全般」というテーマに加え、2015年度は特に、「芸術文化と都市・社会」「高齢化と都市・社会」をテーマにした発表を募集し、開催しました。                                | 377人                                      |
| FDフォーラム                    | 1995 | 大学教職員・関係者のFDに対する意識を高め、大学教育の改善に資することを目的として、その時々注目されている題材をテーマとしたシンポジウムの開催や、加盟校を中心とする各大学の取り組みや事例の発信、および大学教育関係者の情報交換・交流の場を提供する企画として開催しています。                                                               | 797人                                      |
| SDフォーラム                    | 2003 | SD分野で関心の高まっているテーマを取り上げ、基調講演および分科会における事例報告や意見交換を通じて、大学職員の能力向上や、大学の枠を超えた情報交流の場を提供することを目的として実施しています。                                                                                                     | 153人                                      |
| 高大連携教育フォーラム                | 2003 | 高校・大学間の連携・接続教育問題における「国内動向の情報共有と京都における取り組みの情報発信」を目的として2003年度から開催しています。毎年、高大連携・接続教育に関する有益なテーマを設定し、そのテーマにおいて第一線で活躍する講師による講演や実践事例紹介、ディスカッション及び教科ごとの分科会を実施しています。                                           | 239人                                      |
| 生涯学習（京カレッジ）                | 1997 | 生涯学習の一環として、大学の授業科目を一般にも提供する「シティーカレッジ」を1997年から京都市と連携して開講しています。2007年からは「京（みやこ）カレッジ」と名称を変更し、高度化・多様化する社会人の学習ニーズに応える生涯学習事業として、約40もの大学・短期大学等が特色ある授業科目や公開講座を提供しています。                                         | 1,748人                                    |
| 京都の大学学びフォーラム（学びフォーラム）      | 2002 | 当財団加盟校の特色ある模擬講義や体験型講座等を通じて、高校生や保護者の方に京都の大学の学びを紹介する高大接続のプログラムです。興味のある学問分野の発見や学習意欲の向上、進学目的の明確化など、参加した生徒にとって将来のキャリアデザインを考える絶好の機会となっています。                                                                 | 1,985人                                    |

## 9事業におけるデータの収集状況について

※ 2010年度から2014年度の5年間のデータを抽出

| 事業名                                | 参加者数 | 加盟校別参加者数                                 | 目標数（定員）                                 | 参加者アンケート                                        | 参加者満足度                                     | 事業費                                 |
|------------------------------------|------|------------------------------------------|-----------------------------------------|-------------------------------------------------|--------------------------------------------|-------------------------------------|
| 単位互換                               | 有    | 有                                        | 無                                       | 有                                               | 有<br>(事業全体の満足度を<br>4段階評価)                  | 有                                   |
| インターンシップ                           | 有    | 有                                        | 有                                       | 有                                               | 有<br>(事業全体の満足度を<br>6段階評価)                  | 有                                   |
| 京都学生祭典                             | 有    | 有<br>(2010年度のデータ無)                       | 来場者・おどり手<br>目標数無。<br>実行委員定員<br>2013まで無。 | 実行委員・おどり手<br>に対するアンケート<br>は未実施。来場者ア<br>ンケートは実施。 | 来場者アンケートの中で、満<br>足度調査を実施する年度とし<br>ない年度が存在。 | 有                                   |
| 京都から発信する<br>政策研究交流大会<br>(政策研究交流大会) | 有    | 有                                        | 無                                       | 有                                               | 無                                          | 有                                   |
| FDフォーラム                            | 有    | 有                                        | 有                                       | 有                                               | 有<br>(事業全体の満足度を<br>4段階評価)                  | 有                                   |
| SDフォーラム                            | 有    | 有                                        | 有                                       | 有                                               | 有<br>(事業全体の満足度を<br>5段階評価)                  | 有<br>(複数の事業を<br>一括して予算編成<br>を行っている) |
| 高大連携教育<br>フォーラム                    | 有    | 有                                        | 有                                       | 有                                               | 有<br>(基調講演・分科会など<br>個別満足度のみ)               | 有<br>(複数の事業を<br>一括して予算編成<br>を行っている) |
| 生涯学習<br>(京カレッジ)                    | 有    | 有                                        | 一部の科目を除き、<br>目標数設定なし                    | 有                                               | 有<br>(授業の個別満足度のみ)                          | 有                                   |
| 京都の大学<br>学びフォーラム<br>(学びフォーラム)      | 有    | 無<br>(参加者が加盟校関係<br>者ではなく、高校生という<br>特性から) | 有                                       | 有                                               | 有<br>(模擬講座などの<br>個別満足度のみ)                  | 有<br>(複数の事業を<br>一括して予算編成<br>を行っている) |

データに共通性がなく、比較検討が困難な項目を表す。

## 9 事業において現在実施しているアンケート調査結果（満足度）について

これまで事業ごとに最終時点で参加者アンケートを実施してきた。また、講義、講習、講演の難易度によって評価値が変わるので単純比較は難しい。

そこで、今回はプラス評価とマイナス評価の差異で比較する DI 値<sup>1</sup>を用いて各事業の推移と事業間を評価する。

### 満足度の DI 値比較

DI 値とは「良い／悪い」といった定性的な指標を数値化して、単一の値に集約する加工統計手法のことで、アンケートの「満足」「やや満足」の合計件数と、「不満」「やや不満」の合計件数を比較する。件数では規模の異なる事業間を比較できないので、構成比の差異（ポイント）で比較する。

### 単位互換事業

単位互換事業の満足度について、選択肢は 4。「どちらでもない」の項目は選択肢にない。DI 値は 69.9 ポイントから 85.3 ポイントの範囲で推移しており、大きな変化はない。

表 1

| 年度      | 2010年度 | 2011年度 | 2012年度 | 2013年度 | 2014年度 |
|---------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 満足      | 1493   | 663    | 726    | 510    | 703    |
| やや満足    |        | 553    | 548    | 366    | 491    |
| どちらでもない |        |        |        |        |        |
| やや不満    |        | 80     | 75     | 44     | 61     |
| 不満      | 110    | 11     | 8      | 12     | 17     |
| 無回答     | 272    | 300    | 231    | 29     | 79     |
| 回答数     | 1875   | 1609   | 1588   | 961    | 1351   |

表 2（実数）

| 年度   | 2010年度 | 2011年度 | 2012年度 | 2013年度 | 2014年度 |
|------|--------|--------|--------|--------|--------|
| プラス  | 1493   | 1216   | 1274   | 876    | 1194   |
| マイナス | -110   | -91    | -83    | -56    | -78    |
| DI 値 | 1383   | 1125   | 1191   | 820    | 1116   |

<sup>1</sup> DI (Diffusion Index) 値とは、「良い／悪い」「上昇／下落」といった定性的な指標を数値化して、単一の値に集約する加工統計手法のこと。または、この方法によって得られた指数をいう。DI は、時系列データであれば値の増加（プラス）／減少（マイナス）、サーベイデータ（アンケートなど）であれば回答が良い／悪いなどの属性に分類し、その属性の個数を集計して全系列数に占める割合などから算出する。

もともとは循環する景気の動きを計測するために、NBER（全米経済研究所）でウェスリー・C・ミッチェル（Wesley Clair Mitchell）らが 1938 年に開発したもので、現在でも内閣府が毎月公表している「景気動向指数」の算出などに使われている。DI の具体的な算出方法は、指標によって異なる。

<http://www.itmedia.co.jp/im/articles/0707/09/news108.html>

表 3 (割合)

| 年度         | 2010年度 | 2011年度 | 2012年度 | 2013年度 | 2014年度 |
|------------|--------|--------|--------|--------|--------|
| プラス        | 79.6%  | 75.6%  | 80.2%  | 91.2%  | 88.4%  |
| マイナス       | -5.9%  | -5.7%  | -5.2%  | -5.8%  | -5.8%  |
| DI (point) | 73.8%  | 69.9%  | 75.0%  | 85.3%  | 82.6%  |

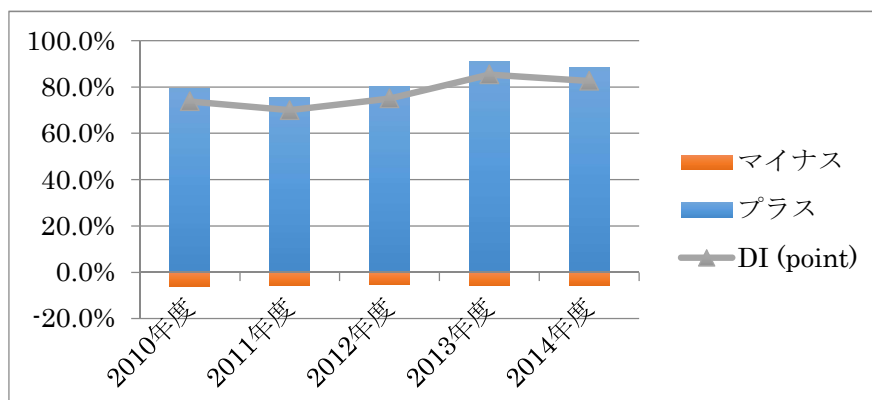


図 1

## SD フォーラム事業

SD フォーラム事業については、アンケートの素データではなく、満足度を平均した集計結果が保存されている。評価は 5 点満点。

表 4

| 年度     | 2010年度 | 2011年度 | 2012年度 | 2013年度 | 2014年度 |
|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 参加者満足度 | 4.3    | 4      | 4.4    | 4.47   | 4.34   |

## FD フォーラム事業

FD フォーラム事業については、アンケートの素データではなく、満足度を平均した集計結果が保存されている。評価は百分率。

表 5

| 年度     | 2010年度 | 2011年度 | 2012年度 | 2013年度 | 2014年度 |
|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 参加者満足度 | 87.2%  | 87.3%  | 86.4%  | 84.7%  | 87.2%  |

## インターンシップ事業

インターンシップ事業の満足度について、選択肢は 6。「どちらでもない」の項目は選択肢にない。DI 値は 80.8 ポイントから 89.4 ポイントの範囲で推移しており、高水準を維持している。

表 6

| 年度      | 2010年度 | 2011年度 | 2012年度 | 2013年度 | 2014年度 |
|---------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 非常に満足   | 160    | 154    | 150    | 141    | 81     |
| かなり満足   | 197    | 171    | 139    | 162    | 163    |
| やや満足    | 128    | 109    | 77     | 91     | 148    |
| どちらでもない |        |        |        |        |        |
| やや不満    | 28     | 30     | 24     | 37     | 19     |
| かなり不満   | 9      | 10     | 6      | 4      | 2      |
| 非常に不満   | 4      | 2      | 2      | 0      | 1      |
| 無回答     | 9      | 4      | 4      | 2      | 0      |
| 回答数     | 535    | 480    | 402    | 437    | 414    |

表 7 (実数)

| 年度   | 2010年度 | 2011年度 | 2012年度 | 2013年度 | 2014年度 |
|------|--------|--------|--------|--------|--------|
| プラス  | 485    | 434    | 366    | 394    | 392    |
| マイナス | -41    | -42    | -32    | -41    | -22    |
| DI 値 | 444    | 392    | 334    | 353    | 370    |

表 8 (割合)

| 年度         | 2010年度 | 2011年度 | 2012年度 | 2013年度 | 2014年度 |
|------------|--------|--------|--------|--------|--------|
| プラス        | 90.7%  | 90.4%  | 91.0%  | 90.2%  | 94.7%  |
| マイナス       | -7.7%  | -8.8%  | -8.0%  | -9.4%  | -5.3%  |
| DI (point) | 83.0%  | 81.7%  | 83.1%  | 80.8%  | 89.4%  |

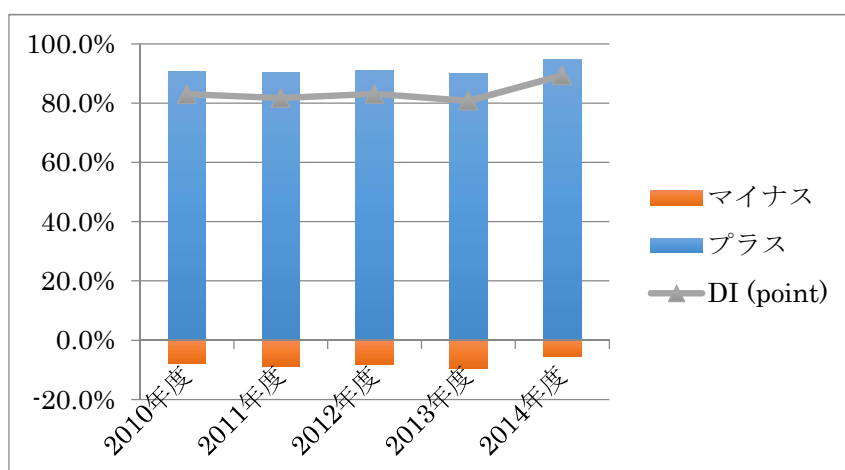


図 2

### 高大連携フォーラム事業

高大連携フォーラム事業の満足度について、選択肢は 4。「どちらでもない」の項目は選

択肢にない。2011 年度は定員数、参加者数は他年度の比べて大きな違いはないにも関わらず、DI 値が 63.8 ポイントと低く、他年度と比べて異なることがあったと推測される。

表 9

| 年度      | 2010年度 | 2011年度 | 2012年度 | 2013年度 | 2014年度 |
|---------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 大満足     | 24     | 23     | 23     | 25     | 40     |
| 満足      | 78     | 54     | 69     | 48     | 69     |
| どちらでもない |        |        |        |        |        |
| やや不満    | 10     | 14     | 5      | 4      | 3      |
| 不満      | 0      | 3      | 0      | 1      | 1      |
| 未回答     | 0      | 0      | 0      | 0      | 0      |
| 回答数     | 112    | 94     | 97     | 79     | 113    |

表 10

| 年度   | 2010年度 | 2011年度 | 2012年度 | 2013年度 | 2014年度 |
|------|--------|--------|--------|--------|--------|
| プラス  | 102    | 77     | 92     | 73     | 109    |
| マイナス | -10    | -17    | -5     | -5     | -4     |
| DI 値 | 92     | 60     | 87     | 68     | 105    |

表 11

| 年度         | 2010年度 | 2011年度 | 2012年度 | 2013年度 | 2014年度 |
|------------|--------|--------|--------|--------|--------|
| プラス        | 91.1%  | 81.9%  | 94.8%  | 92.4%  | 96.5%  |
| マイナス       | -8.9%  | -18.1% | -5.2%  | -6.3%  | -3.5%  |
| DI (point) | 82.1%  | 63.8%  | 89.7%  | 86.1%  | 92.9%  |



図 3

### 政策研究交流大会

事業終了時のアンケートを実施しているものの、満足度の項目がない。

### 京都学生祭典

学生祭典事業の満足度について、選択肢は4。「どちらでもない」の項目は選択肢にない。学生祭典については来場者にアンケートしているものの、2011 年度、2012 年度の2ヶ年のみ満足度の項目が入れられた。

表 12

| 年度      | 2010年度 | 2011年度 | 2012年度 | 2013年度 | 2014年度 |
|---------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 満足      |        | 117.3  | 151.3  |        |        |
| やや満足    |        | 177.5  | 253.6  |        |        |
| どちらでもない |        |        |        |        |        |
| やや不満    |        | 15.9   |        |        |        |
| 不満      |        | 3.2    | 4.1    |        |        |
| 無回答     |        |        |        |        |        |
| 回答数     |        | 317    | 409    | 1229   | 727    |

ただし、回答数と各選択肢の構成比が記録されていたので、件数はそれから逆算して求めた。

表 13

| 年度         | 2010年度 | 2011年度 | 2012年度 | 2013年度 | 2014年度 |
|------------|--------|--------|--------|--------|--------|
| プラス        |        | 294.8  | 404.9  |        |        |
| マイナス       |        | -19.0  | -4.1   |        |        |
| DI (point) |        |        |        |        |        |

表 14

| 年度         | 2010年度 | 2011年度 | 2012年度 | 2013年度 | 2014年度 |
|------------|--------|--------|--------|--------|--------|
| プラス        | 94.0%  | 93.0%  | 99.0%  |        |        |
| マイナス       | -6.0%  | -6.0%  | -1.0%  |        |        |
| DI (point) | 88.0%  | 87.0%  | 98.0%  |        |        |

ただし、2010 年度については、各選択肢の構成比が記録されていたので、そのまま集計した。

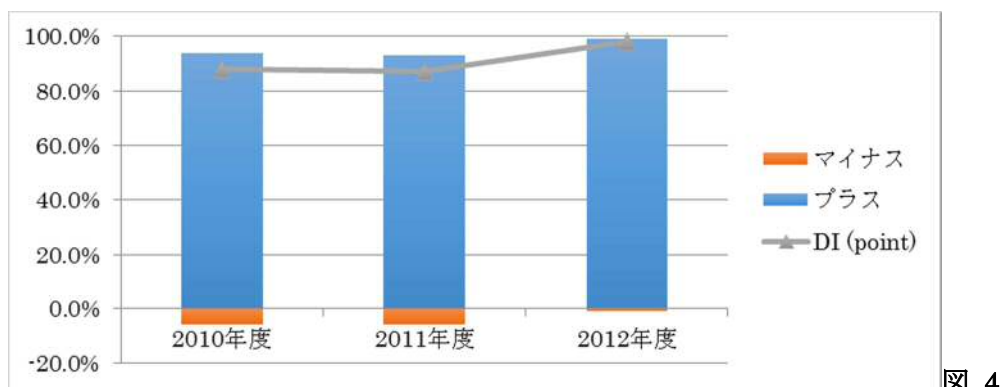


図 4

### 生涯学習事業（京カレッジ）

生涯学習事業の満足度について、2014 年度を除いて選択肢は 4。「どちらでもない」の項目は選択肢にない。2014 年度について、他年度と比べて無回答が多いので、集計方法が異なるものと推測される。



表 15

| 年度      | 2010年度 | 2011年度 | 2012年度 | 2013年度 | 2014年度 |
|---------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 満足      |        | 86     | 136    |        | 204    |
| やや満足    |        | 124    | 158    |        | 131    |
| どちらでもない |        |        |        |        | 14     |
| やや不満    |        | 19     | 16     |        | 10     |
| 不満      |        | 3      | 0      |        | 8      |
| 無回答     |        | 9      | 14     |        | 368    |
| 回答数     |        | 241    | 324    |        | 735    |

ただし、2014 年度について、回答数の記録が誤っているので、無回答を含む回答数の合計を回答数として、集計する。

表 16

| 年度   | 2010年度 | 2011年度 | 2012年度 | 2013年度 | 2014年度 |
|------|--------|--------|--------|--------|--------|
| プラス  | 0      | 210    | 294    | 0      | 335    |
| マイナス | 0      | -22    | -16    | 0      | -18    |
| DI 値 | 0      | 188    | 278    | 0      | 317    |

表 17

| 年度         | 2010年度 | 2011年度 | 2012年度 | 2013年度 | 2014年度 |
|------------|--------|--------|--------|--------|--------|
| プラス        |        | 87.1%  | 90.7%  |        | 45.6%  |
| マイナス       |        | -9.1%  | -4.9%  |        | -2.4%  |
| DI (point) |        | 78.0%  | 85.8%  |        | 43.1%  |

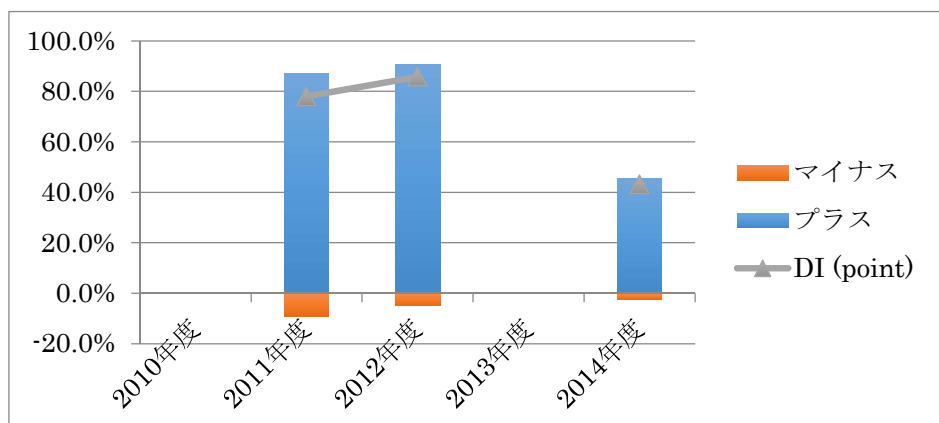


図 5

### 学びフォーラム事業

学びフォーラムの事業後アンケートの質問項目は 2010 年度・2011 年度、2012 年度、2013 年度で異なる。2010 年度・2011 年度は講義・講座の面白さを問うもの、2012 年度は大学の講義への関心度を問うもの、2013 年度以降は「学びフォーラムに参加して大学に関心を持つことができたか」を問うものとなっている。よって、事業の満足度を直接問うもので

はない。図 6 にその違いが端的に表れている。

表 18

| 年度      | 2010年度 | 2011年度 | 2012年度 | 2013年度 | 2014年度 |
|---------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 満足      | 336    | 431    | 264    | 486    | 507    |
| やや満足    | 236    | 340    | 233    | 396    | 316    |
| どちらでもない |        |        | 122    | 53     | 29     |
| やや不満    | 17     | 14     | 17     | 10     | 5      |
| 不満      | 1      | 2      | 9      | 5      | 20     |
| 無回答     | 21     | 16     | 277    |        | 70     |
| 回答数     | 590    | 787    | 645    | 950    | 877    |

表 19

| 年度   | 2010年度 | 2011年度 | 2012年度 | 2013年度 | 2014年度 |
|------|--------|--------|--------|--------|--------|
| プラス  | 572    | 771    | 497    | 882    | 823    |
| マイナス | -18    | -16    | -26    | -15    | -25    |
| DI 値 | 554    | 755    | 471    | 867    | 798    |

表 20

| 年度         | 2010年度 | 2011年度 | 2012年度 | 2013年度 | 2014年度 |
|------------|--------|--------|--------|--------|--------|
| プラス        | 96.9%  | 98.0%  | 77.1%  | 92.8%  | 93.8%  |
| マイナス       | -3.1%  | -2.0%  | -4.0%  | -1.6%  | -2.9%  |
| DI (point) | 93.9%  | 95.9%  | 73.0%  | 91.3%  | 91.0%  |

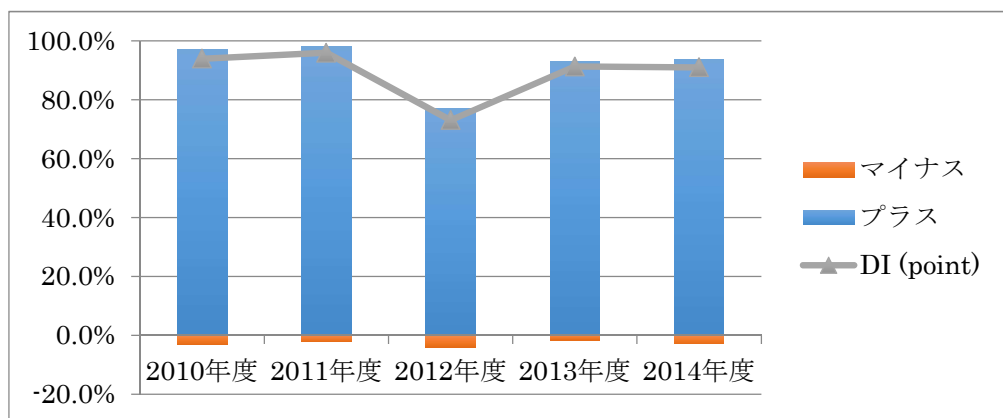


図 6

#### 満足度を評価指標に用いることについて

前述のとおり、特徴の異なる事業を一つの指標で評価するのは難しいが、これまでの情報に基づいて DI 値を用いて満足度を評価してみた結果を整理する。

- DI 値を用いて比較する場合、満足度の表現、選択肢の数、表現を統一する必要がある。
- 調査時期、調査回数を統一する必要がある。
- 満足度について、DI 値を用いる手法は、事業の性質、規模など特徴の異なるものを比較する一つの指標になり得るものと思われる。

以上

## 参加者アンケートの共通項目について

各事業において実施する参加者アンケートに下記項目を必須の「共通項目」とし、収集データの共通化を図る。

Q1. ご自身の所属について

- ・所属学校名・会社名（ ）
- ・職種（ 学生 ・ 教員 ・ 職員 ・ その他（ ） ）

Q2-1. 今回の●●の満足度

1 満足—2 やや満足—3 どちらでもない—4 やや不満—5 不満

Q2-2. Q2 で選択された満足度の理由をご記入ください。

Q3. ●●の改善すべき点があればご記入ください。

Q4. ●●は知人・同僚等に参加を推奨したいと思いますか。

1 推奨したい—2 やや推奨したい—3 どちらでもない—4 あまり推奨したくない—5 推奨できない

運用にあたっては、以下の点に留意する。

なお、参加者アンケートは「共通項目」に加え、各事業独自に質問を設けることができる。また、項目における選択肢の数・標記などは、本運用を推奨するが、独自の設定もできる。

- ① 上記 Q1 から Q4 の項目を必ず設問に加えた参加者アンケートを作成する。なお、設問の順番は自由とする。
- ② ●●には事業（イベント）名を入れる。
- ③ Q1 の所属に関わる選択肢は、大学関係者については所属先名と学生・教員・職員の別が分かる設定で統一する。ただし、事業内容によって選択肢の除外・追加は可能とする。
- ④ Q2-1、Q4 の選択肢の数は 5 つとし、選択肢の標記についても上記で統一する。

以上

## 「大学コンソーシアム京都 事業に関するアンケート」について

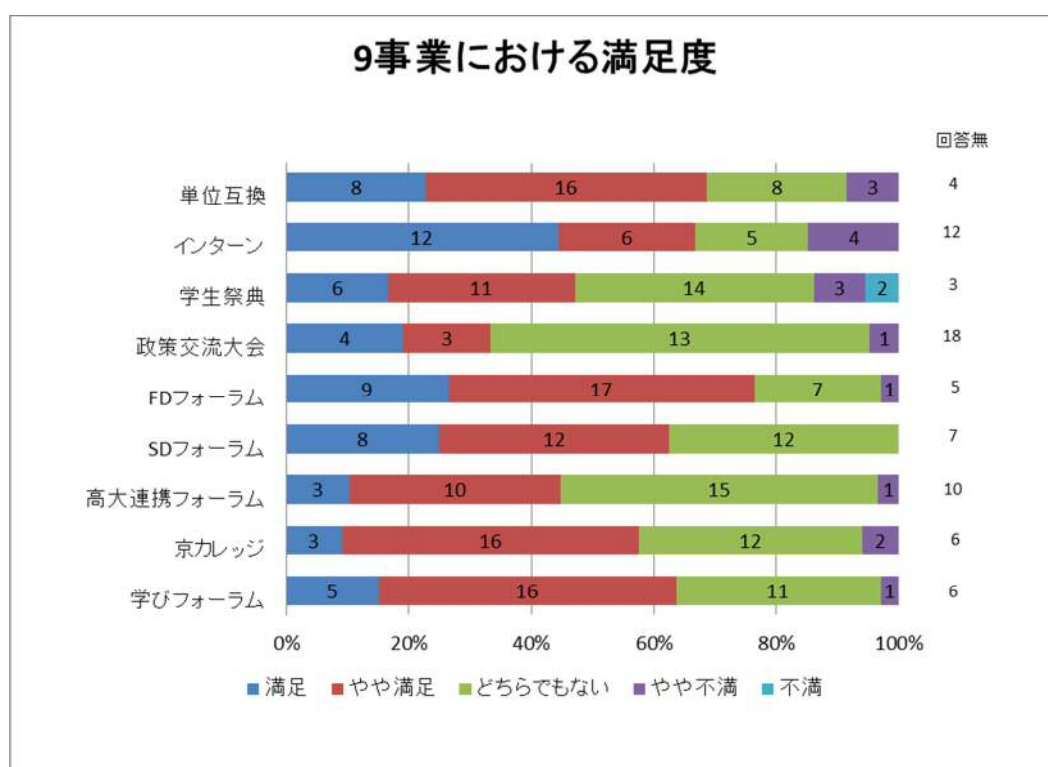
### <実施概要>

- 1 目 的 財団事業の比較や中長期的な財団のありようを検討するための指標作成に伴う  
「加盟校の財団事業に対する満足度」の調査
- 2 調査対象 加盟校 41 校（大学・短期大学部併設校は 1 校とする）
- 3 実施対象事業  
財団事業として 10 年以上の取組実績があり、例年 100 名を超える参加者のある 9 事業
  - ①単位互換事業
  - ②インターンシップ事業
  - ③京都学生祭典
  - ④京都から発信する政策研究交流大会
  - ⑤FDフォーラム事業
  - ⑥SDフォーラム事業
  - ⑦高大連携教育フォーラム事業
  - ⑧生涯学習事業「京（みやこ）カレッジ」
  - ⑨京都の大学学びフォーラム事業
- 4 実施期間
 

調査票配布 10月15日（木）から11月2日（月）

回答締切 11月20日（金）
- 5 回答 全41校のうち、39校から回答あり

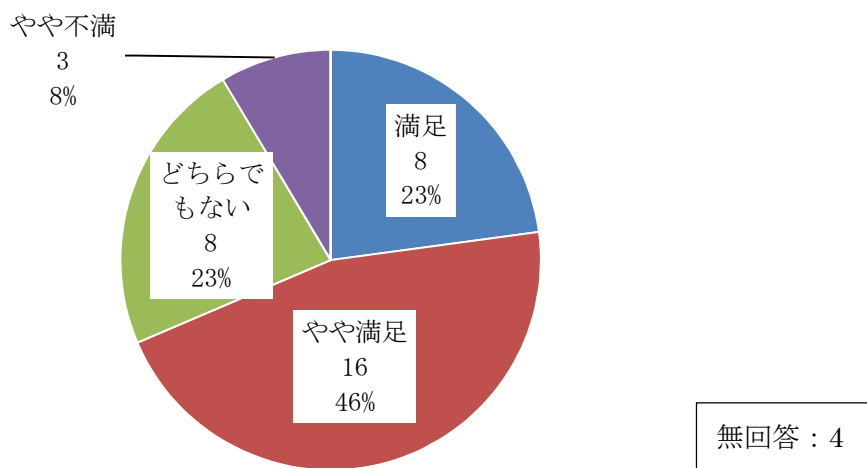
以上



## 【1】単位互換事業について

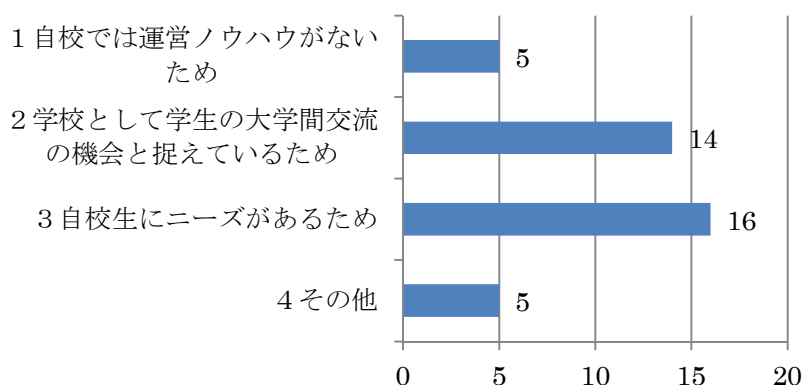
(1) 単位互換事業についてお伺いします。この事業について貴校はどのようにお考えですか。

|      |        |           |        |      |
|------|--------|-----------|--------|------|
| 1 満足 | 2 やや満足 | 3 どちらでもない | 4 やや不満 | 5 不満 |
|------|--------|-----------|--------|------|



(2) (1)で「満足」「やや満足」を選択された学校にお伺いします。その理由は何ですか。(複数回答可)

- |                   |                            |
|-------------------|----------------------------|
| 1 自校では運営ノウハウがないため | 2 学校として学生の大学間交流の機会と捉えているため |
| 3 自校生にニーズがあるため    | 4 その他（自由記述）                |

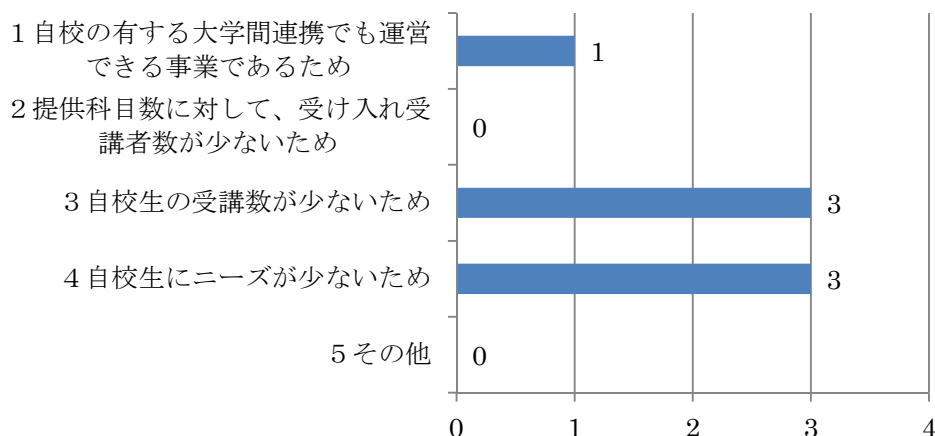


## &lt;その他の意見&gt;

- ・ 毎年多くの出願をいただき、加盟校の多くの学生に学習機会として利用いただいているため。
- ・ 幅広い領域の学問について講義を受ける機会を設けるため。
- ・ 学生の選択肢の幅が広がるため
- ・ 本学には選択科目設定が乏しいことと、人文科学系科目を学生に学んでもらう機会に乏しいため、本単位互換でそれが可能になっていることに大変満足している。
- ・ 本学生の他大学受講が多いのに対し、反対のパターンが少なく、恐縮です。

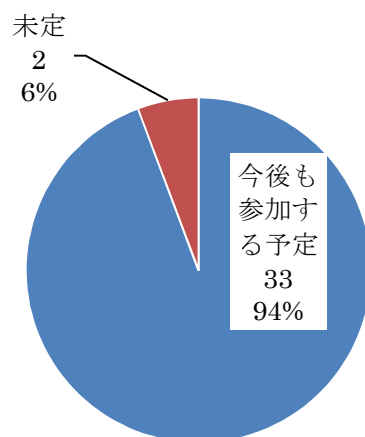
(3) (1)で「やや不満」「不満」を選択された学校にお伺いします。その理由は何ですか。(複数回答可)

- 1 自校の有する大学間連携でも運営できる事業であるため  
 2 提供科目数に対して、受け入れ受講者数が少ないため  
 3 自校生の受講数が少ないため 4 自校生にニーズが少ないため 5 その他（自由記述）



(4) 単位互換事業に今後参加されるご予定はありますか。

- 1 今後も参加する予定 2 未定 3 今後は参加する予定はない



無回答：4

(5) 単位互換事業についてお気づきの点がございましたら、ご記入ください。(自由記述)

- ・ 50 程の加盟大学と団体が連携している事業は京都ならではと感じているので、今後も大切にしたい。
- ・ 本学への受け入れ、本学からの送出しいずれも少なくなっている為。他校が活用されている状況も聞かせていただき参考にしていきたい。
- ・ 履修許可者において、K評価（試験欠席・棄権）となるものが多い。本学では単位互換制度の出願資格として、全学部 2 年次生以上とし、GPA の制限を設けている。加えて「修学意思が強く、履修許可になった場

合、最後まで出席することが可能な人」と明示している。他大学においても対策が必要ではないか。

- ・カリキュラムや大学同士の位置も関係しているだろうが、本学の科目に出願してくる大学に偏りがある。いくつかの大学の学生が非常に多く履修手続きを行っている状況である。履修手続きをしても、授業に行っていないケースも散見される。
- ・授業登録期間が短いため、申込が難しい様子。
- ・免許・資格を取る学生が多く、コンソーシアムの科目を取る時間がないのが現状です。
- ・e 京都ラーニングの大学管理画面で、自大学学生の出願情報を修正できる期間があれば便利だと思う。
- ・次年度以降の既存の e ラーニング科目の運営について知りたい。
- ・第 1 回事務担当者会議で触れておられた「単位互換」の解釈に係る、その後の動向を知りたい。

**(6) 事業に参加されていない学校にのみお伺いします**

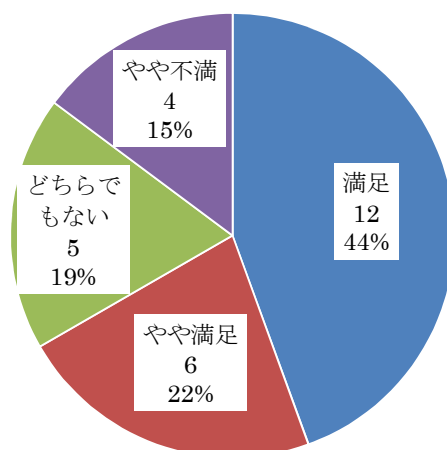
**参加されていない理由は何ですか。(自由記述)**

- ・その必要性を感じていないため。
- ・学生ニーズがないため。
- ・本学でニーズがなかったため。

## 【2】インターンシップ事業

(1) インターンシップ事業についてお伺いします。この事業について貴校はどのようにお考えですか。

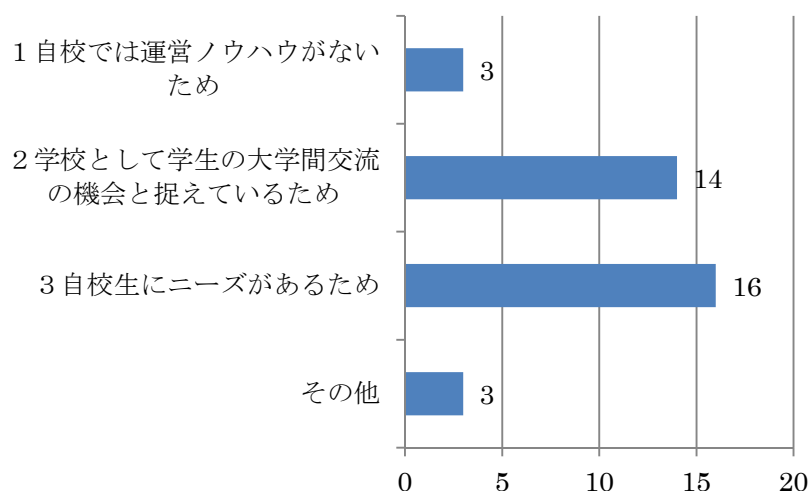
|      |        |           |        |      |
|------|--------|-----------|--------|------|
| 1 満足 | 2 やや満足 | 3 どちらでもない | 4 やや不満 | 5 不満 |
|------|--------|-----------|--------|------|



無回答：12

(2) (1)で「満足」「やや満足」を選択された学校にお伺いします。その理由は何ですか。(複数回答可)

- |                   |                            |
|-------------------|----------------------------|
| 1 自校では運営ノウハウがないため | 2 学校として学生の大学間交流の機会と捉えているため |
| 3 自校生にニーズがあるため    | 4 その他（自由記述）                |



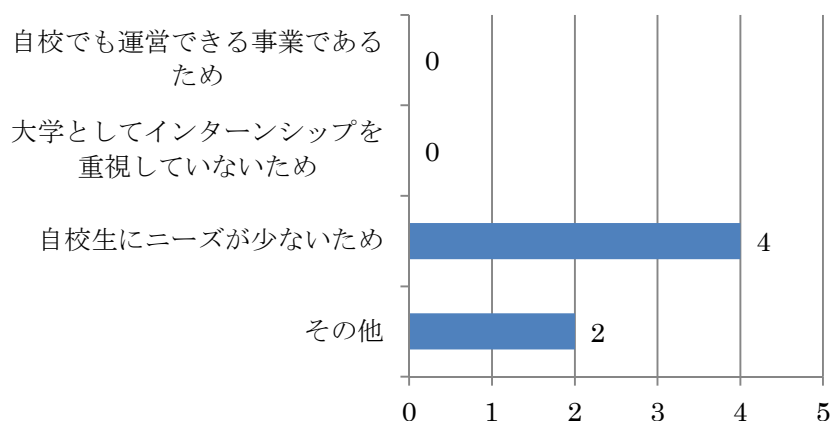
<その他の意見>

- ・事前学習、事後学習などインターンシップ学習として体系化されたプログラムであり、安心して学生を参加させることができる。
- ・本学独自のインターンシップの研修では受入のない企業・団体での研修が有意義である。
- ・例年希望者が数名にとどまるため。（「満足」を選択したいと考えているが、やや満足を選択している）



(3) (1)で「やや不満」「不満」を選択された学校にお伺いします。その理由は何ですか。(複数回答可)

- |                    |                           |
|--------------------|---------------------------|
| 1 自校でも運営できる事業であるため | 2 大学としてインターンシップを重視していないため |
| 3 自校生にニーズが少ないため    | 4 その他（自由記述）               |

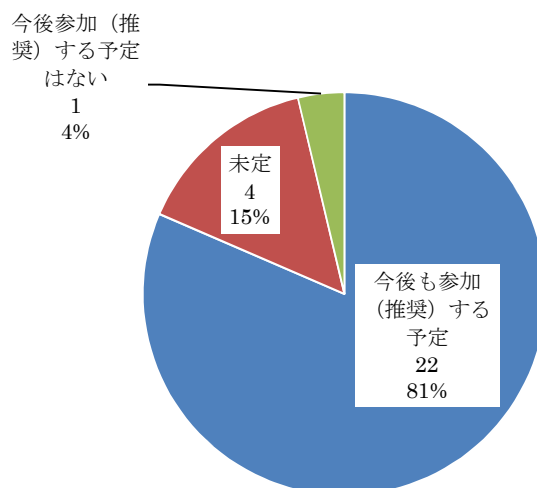


<その他の意見>

- ・ 学生全員が教育実習を経験し、教育に関わるインターンシップを最重視しているため。
- ・ 募集時期、スケジュールが早すぎるのではないかな。

(4) インターンシップ事業に今後参加される（学生に参加を推奨される）ご予定はありますか。

- |                 |      |                   |
|-----------------|------|-------------------|
| 1 今後も参加（推奨）する予定 | 2 未定 | 3 今後参加（推奨）する予定はない |
|-----------------|------|-------------------|



無回答：12

(5) インターンシップ事業についてお気づきの点がございましたら、ご記入ください。(自由記述)

- ・ 学生のほぼ全員が大学の教育に関わるインターンシップ事業に参加している。
- ・ 短大では幼保、福祉施設への進路希望が多く、一般企業希望が少ない。大学は正課の必修として本学でのインターンシップを実施していることが大きい。学生個々のさらなるインターンシップの希望をかなえてもら

えるよう、コンソーシアムでの受入拡充をお願いしたい。

- ・一層多くの企業様の参加を望みます。
- ・全体として「インターンシップ」に興味を持つ学生は年々増加しているように感じる。
- ・カリキュラムの都合上やむを得ないことは承知の上ですが、やはり募集時期の見直しをご検討されてはいかがでしょうか。学生がインターンについて意識し、具体的に情報を集め始めるのは6月以降が多いため、本事業が気付かれずに終わっているように思います。
- ・当事業は学生にとって非常に有意義なプログラムであり、積極活用をさせていただいています。採用スケジュールの変更により、今後既存先を中心に受入企業の対応の変化（受入人数の削減等）が出てくるかが気になります。
- ・コーディネーターの職責が重いように感じます。事前研修日が土曜授業日と重複した場合のフォローや中間指導の軽減などがあると、学内での依頼がしやすくなると思います。
- ・以前、加盟大学へ担当教員を派遣するよう要請があったと前任者より聞いております。単位制度上、当然のご措置かと思いますが、本学ではそれに充てられる教員がいないため、担当を充てられずにあります。そのような中で参加する者がいることを心苦しくは思いますが、引き続きよろしく願いいたします。
- ・事前学習終了後もしくは企業・団体実習終了後に、学生の出席状況や辞退等を中間報告いただく機会を設けていただきたい。
- ・フィードバックが欲しい。

#### **(6) 事業に参加されていない学校にのみお伺いします**

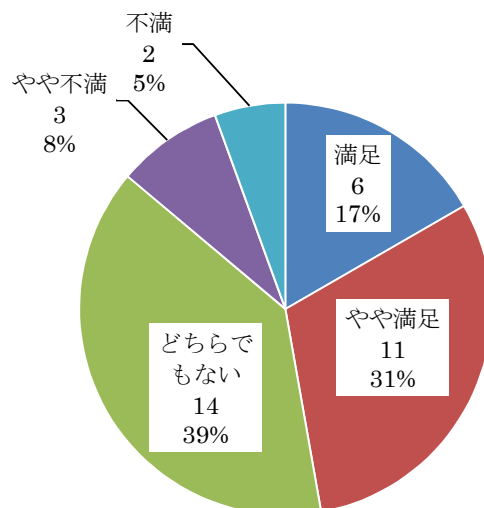
##### **参加されていない理由は何ですか。（自由記述）**

- ・事務担当者としては、これだけの規模をご提供いただいていることに感謝している。参加者が出て来ないのは、本学の学部・学科構成も深く関係していると思われる。本学だけではとてもできない事業なので、これからも継続して頂きたい。
- ・就職を希望する学生が少なく、インターンシップを希望する学生が少ないため。
- ・本学の学問分野においては特に必要性を感じない。
- ・本学の学生向けのインターンシップ（仕事内容）が見つけられないため。
- ・インターンシップの時期と定期試験があるなど短期大学のスケジュールの中で参加するのはむずかしいところがある。学生への案内は、ガイダンス時に資料を配布している。
- ・短大生が参加するには少しハードルが高く（参加料・事前学習等）、短大の授業、課外講座等優先される状況にある。
- ・短期大学のため日程的に厳しいものがあり、本学学生についてはニーズが少ない。

## 【3】 京都学生祭典について

(1) 京都学生祭典についてお伺いします。この事業について貴校はどのようにお考えですか。

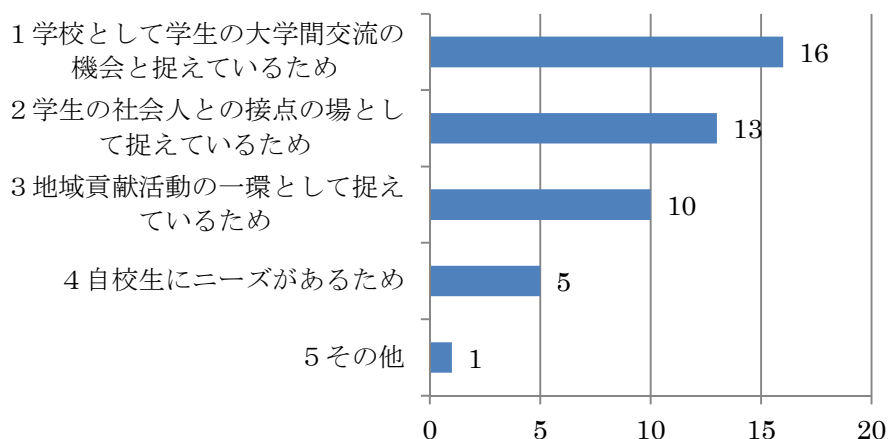
1 満足 2 やや満足 3 どちらでもない 4 やや不満 5 不満



無回答：3

(2) (1)で「満足」「やや満足」を選択された学校にお伺いします。その理由は何ですか。(複数回答可)

- 1 学校として学生の大学間交流の機会と捉えているため  
 2 学生の社会人との接点の場として捉えているため  
 3 地域貢献活動の一環として捉えているため 4 自校生にニーズがあるため 5 その他（自由記述）

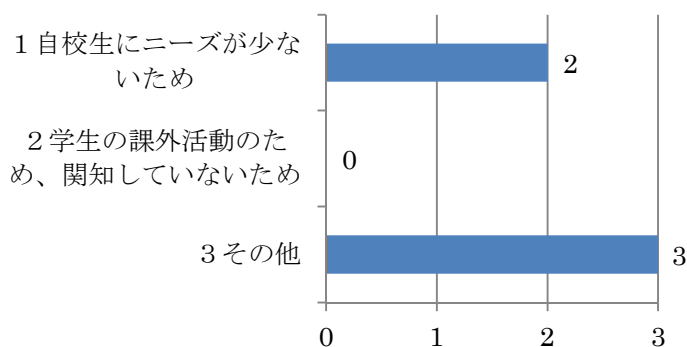


&lt;その他の意見&gt;

- ・ 今年国際交流が進んでよかった

(3) (1)で「やや不満」「不満」を選択された学校にお伺いします。その理由は何ですか。(複数回答可)

|                 |                        |
|-----------------|------------------------|
| 1 自校生にニーズが少ないため | 2 学生の課外活動のため、関知していないため |
| 3 その他（自由記述）     |                        |

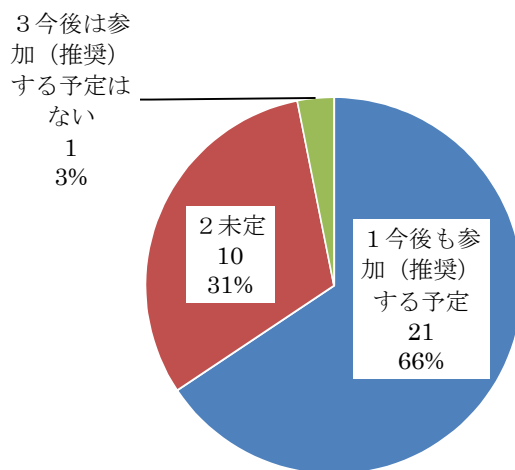


<その他の意見>

- ・小規模のため分担金が負担である
- ・企画・運営に企業色が濃く、学生らしさに乏しいと感じられる為。
- ・会議出席状況からも実行委員となっている学生及び所属大学が実施している事業という感が否めない。すべての大学の学生が参加しようとする魅力的な企画が必要であると考えます。

(4) 京都学生祭典に今後学生に参加を推奨されるご予定はおありですか。

|                 |      |                    |
|-----------------|------|--------------------|
| 1 今後も参加（推奨）する予定 | 2 未定 | 3 今後は参加（推奨）する予定はない |
|-----------------|------|--------------------|



無回答：7

(5) 京都学生祭典についてお気づきの点がございましたら、ご記入ください。

- ・学生の主体的な参加に任せているため本学所属の実行委員の活動実態を把握できていないのが現状である。
- ・参加するかどうかは学生の意思によるものであり、事務局から働きかけることが適切であるとは考えていないため。

- ・短期大学の学生が出店する場合（以前は出店していた）、結局、教職員の準備段階からの関わりや当日同行が必要となる。大学自体の大学祭も近いと、時期的な面から対応は現実的にできない。
- ・年度ごとに、実行委員・おどり手として参加している学生の氏名を各所属大学ごとに教えてほしい。（学生活動の把握のため）
- ・今後も学生の主体性の養成および多額との交流によって視野を広げる好機として積極的に参加することを奨めたい。
- ・実行委員の派遣メンバーを増やしたいが、本学の学園祭時期にどうしても重なってくるため、学生の派遣に苦慮している。
- ・縁日企画の学生飲食ブースの来場者投票の方法がわからず、スタッフに聞いてもわからないままで、今後は周知がはかれるように、共通理解がはかれるようお願いする。
- ・会議の構成員が肩書き重視で、出席者も少なく、かつ予定調和されています。規模が大きくなり過ぎて、学生の力が発揮しにくくなっている感じがします。
- ・学生の行事が重なっているため、時期を検討してみてもどうか。
- ・今後の祭典をより発展させるためには、参加大学・学生を幅広く継続することが必要であり、例えば、各大学の学生自治会等の母体代表が、実行委員会・クラブ団体・クラスゼミ等のイベント企画を紹介する「参加大学の個別ブース」を設け、市民の方々に祭典当日だけでなく、後日の各キャンパスへの行事参加への招待を促してはどうか。

#### **(6) 事業に参加されていない学校にのみお伺いします**

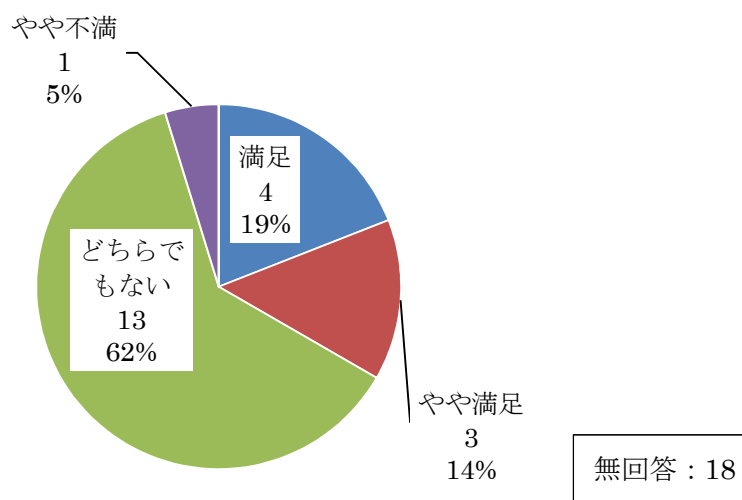
##### **参加されていない理由は何ですか。**

- ・参加をよびかけているが短期大学であること、資格免許を取る課程に属している学生が多いので、時間的にむずかしい。
- ・個人ベースの活動までは把握しておりませんが、全学的には課題制作や学内プロジェクト（課外活動）が盛んであり、京都学生祭典実行委員等への活動参加を学生に敢えて推すことはしていないため。
- ・現在のところ、希望者がいないため。
- ・本学の大学祭と被っており、積極的に推奨できない。どちらかの日程が変更になった場合は学生にも積極的に参加を促したい。
- ・本学は市内から遠方でもあり、なかなか学生が積極的に参加できる状況ではない。今後でもできる範囲で協力させていただきたいと思っている。
- ・分担金には協力させていただいており、学生へも広告等でお知らせしているが、地理的なこともあり、積極的に参加できていないように感じる。

## 【4】京都から発信する政策研究交流大会（以下、政策研究交流大会）

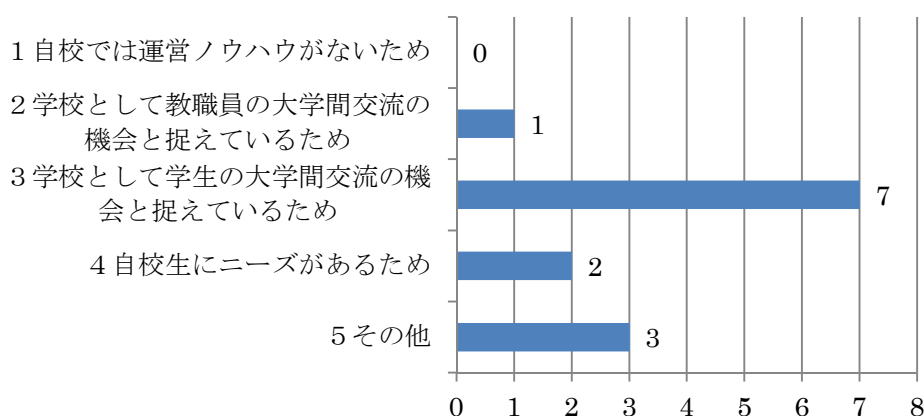
## (1) 政策研究交流大会についてお伺いします。この事業について貴校はどのようにお考えですか。

|      |        |           |        |      |
|------|--------|-----------|--------|------|
| 1 満足 | 2 やや満足 | 3 どちらでもない | 4 やや不満 | 5 不満 |
|------|--------|-----------|--------|------|



## (2) (1)で「満足」「やや満足」を選択された学校にお伺いします。その理由は何ですか。(複数回答可)

- |                            |                             |
|----------------------------|-----------------------------|
| 1 自校では運営ノウハウがないため          | 2 学校として教職員の大学間交流の機会と捉えているため |
| 3 学校として学生の大学間交流の機会と捉えているため | 4 自校生にニーズがあるため              |
| 5 その他（自由記述）                |                             |

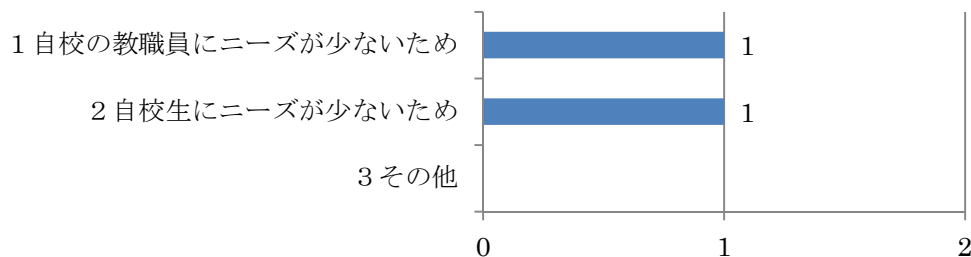


## &lt;その他の意見&gt;

- ・発表に対する審査員のコメントについて、ある程度研究実績を積んだ3・4年生向けのものが中心であるが、本学はカリキュラムの都合上、主に2年生が参加しているため、審査員からのコメント等について考慮していただきたい。
- ・学生の主体的な研究につながる高い学習意欲が求められる取組であるため。
- ・自校生が「対外試合」を経験する良い機会であるため。

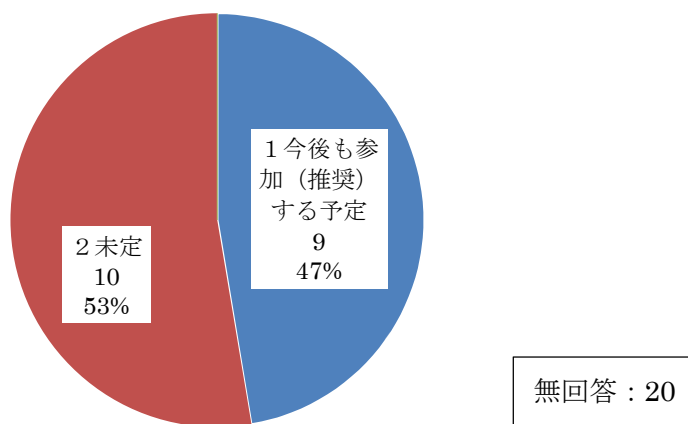
(3) (1)で「やや不満」「不満」を選択された学校にお伺いします。その理由は何ですか。(複数回答可)

1 自校の教職員にニーズが少ないため      2 自校生にニーズが少ないため      3 その他（自由記述）



(4) 政策研究交流大会に今後参加される（教職員・学生に参加を推奨される）ご予定はありますか。

1 今後も参加（推奨）する予定      2 未定      3 今後参加（推奨）する予定はない



(5) 政策研究交流大会についてお気づきの点がございましたら、ご記入ください。

- ・学生にとっても大変意義のある機会となると思いますのでぜひ参加させたい。そのためには学内教員への理解を促すことが先決である。
- ・学生に研究、調査、発表をする絶好の場を提供してくれる有意義な企画と評価しています。
- ・異なる大学間で学生の交流が深まるような機会を積極的に作ることが、この交流の中でもっと工夫できればよいと考える。
- ・参加大学・学部は年々増えているが、今後更に参加大学・学部が増えるよう積極的に働きかけていただきたい。
- ・地域レベルの政策課題だけでなく、国レベルの話につながるような政策提言があってもよいのではないかな。

**(6) 事業に参加されていない学校にのみお伺いします**  
**参加されていない理由は何ですか。**

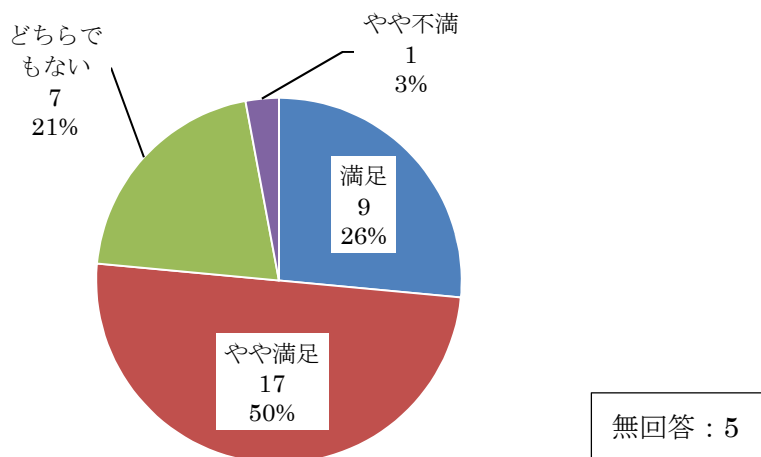
- ・ 本学の学生にとってニーズが少ないと思われるため。
- ・ 本学のように設置学科の内容と合わない短期大学の学生に参加させることは困難であるため。
- ・ 本学の専門性等も関係し、関心のある学生が少ないものと推察している。
- ・ 大学の規模から手を広げ難いため。
- ・ これまでは事業の意義・活動内容などについて学内の関心が高いとは言えなかったため、今後は、参加有無などについて検討していきたい。
- ・ 正規課程において同趣旨の取組みが実施されていることから、本学の教職員や学生のニーズが少ないと考えられる。研究成果が実際の政策に反映される仕組みが無いことも積極的ではない理由である。
- ・ 毎年参加している大学は固定化していて、美術系大学は参加していないところを見ると、全ての大学に意義がある大会ではないようである。
- ・ 本学は市内から遠方でもあり、なかなか積極的に参加できる状況ではない。



## 【5】FD フォーラム事業

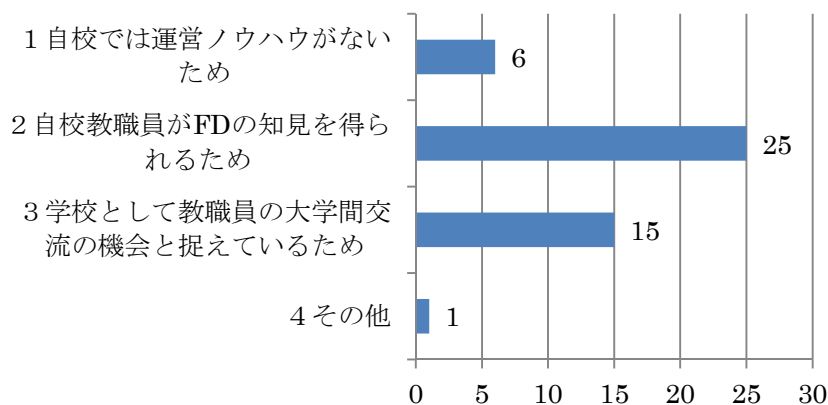
(1) FD フォーラム事業についてお伺いします。この事業について貴校はどのようにお考えですか。

|      |        |           |        |      |
|------|--------|-----------|--------|------|
| 1 満足 | 2 やや満足 | 3 どちらでもない | 4 やや不満 | 5 不満 |
|------|--------|-----------|--------|------|



(2) (1)で「満足」「やや満足」を選択された学校にお伺いします。その理由は何ですか。(複数回答可)

|                             |                      |
|-----------------------------|----------------------|
| 1 自校では運営ノウハウがないため           | 2 自校教職員がFDの知見を得られるため |
| 3 学校として教職員の大学間交流の機会と捉えているため | 4 その他（自由記述）          |

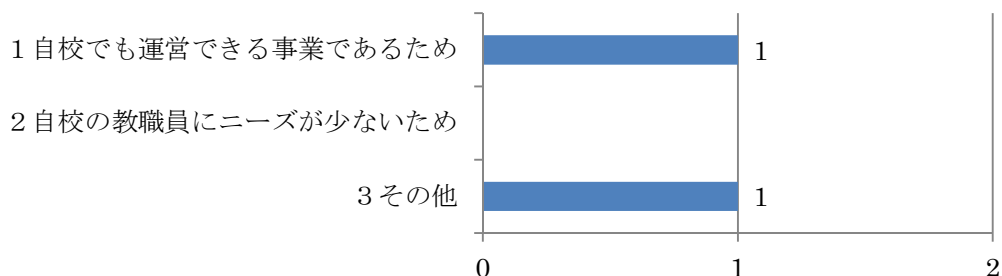


&lt;その他の意見&gt;

- ・FDは特定の熱心な教職員によって支えられていますが、教職員全体への広がりがなかなか進まない為。

(3) (1)で「やや不満」「不満」を選択された学校にお伺いします。その理由は何ですか。(複数回答可)

1 自校でも運営できる事業であるため      2 自校の教職員にニーズが少ないため      3 その他（自由記述）

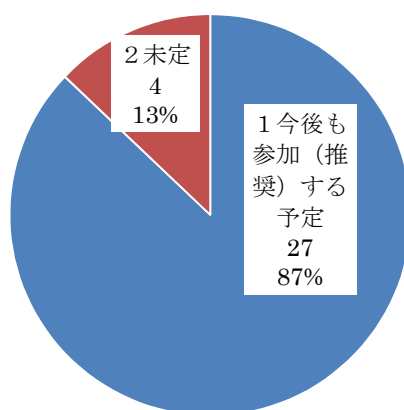


<その他の意見>

- ・事業発足当初は FD に対する理解が低かったが、現在では多くの大学で浸透している。当初のニーズと現代のニーズの格差に対応しないまま継続しているように感じている。

(4) FD フォーラム事業に今後参加される（教職員に参加を推奨される）ご予定はありますか。

1 今後も参加（推奨）する予定      2 未定      3 今後参加（推奨）する予定はない



無回答：8

(5) FD フォーラム事業についてお気づきの点がございましたら、ご記入ください。

- ・学外でこうした研修の機会を設けてもらえるのはありがたい。教員のスケジュールさえ合えば今後も積極的に参加させてもらいたい。
- ・本学教員ではできないことをコンソーシアムでは実施していただきたい。多くの事業や催し物のある中で、参加したくなる FD フォーラムを希望します。
- ・多くの教職員が参加する仕掛けを考えていただけないでしょうか。
- ・毎年 1000 人集めなければならないイベント事業と化しているように感じている。今後継続していくためには、

中・小規模の大学でも開催出来るような工夫が必要である。

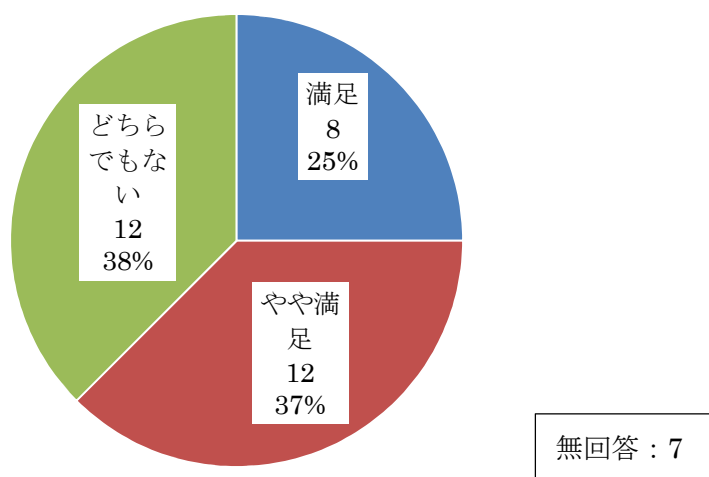
**(6) 事業に参加されていない学校にのみお伺いします**  
**参加されていない理由は何ですか。**

- ・大学内での FD 研修（SD 研修）に力を注いでいること。同じ教員養成大学との SD 研修などがあり、本学の教職員が積極的に参加する見通しは立たない。
- ・過去、職員は参加してきたが、近年は職員が減った上に、業務多忙時期につき、参加が難しい。
- ・「新任教員向け研修」に 1 名参加している。2015 年度も日程の都合がよければ新任教員を参加させたいと考えている。
- ・組織として、フォーラムで得たノウハウを学内で水平展開できるような体制になった時点で参加したい。
- ・学修支援や学修成果の可視化などをテーマに開催されたフォーラム等に参加したが、個々の分科会やポスターセッションでの他大学の FD 活動を知る貴重な機会であり、本学でも年々職員の参加者も増加している。
- ・現在、本学ではニーズがないため。

## 【6】SD フォーラム事業

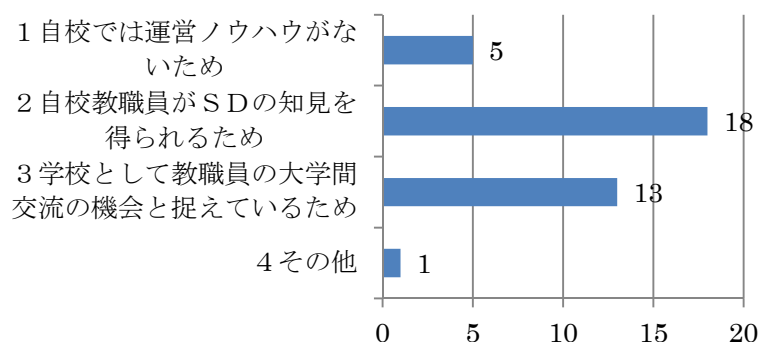
(1) SD フォーラム事業についてお伺いします。この事業について貴校はどのようにお考えですか。

|      |        |           |        |      |
|------|--------|-----------|--------|------|
| 1 満足 | 2 やや満足 | 3 どちらでもない | 4 やや不満 | 5 不満 |
|------|--------|-----------|--------|------|



(2) (1)で「満足」「やや満足」を選択された学校にお伺いします。その理由は何ですか。(複数回答可)

|                             |                      |
|-----------------------------|----------------------|
| 1 自校では運営ノウハウがないため           | 2 自校教職員がSDの知見を得られるため |
| 3 学校として教職員の大学間交流の機会と捉えているため | 4 その他（自由記述）          |



<その他の意見>

- ・話を聞き、他大学職員と話をすることで刺激を受け、参加者のモチベーションがあがる。

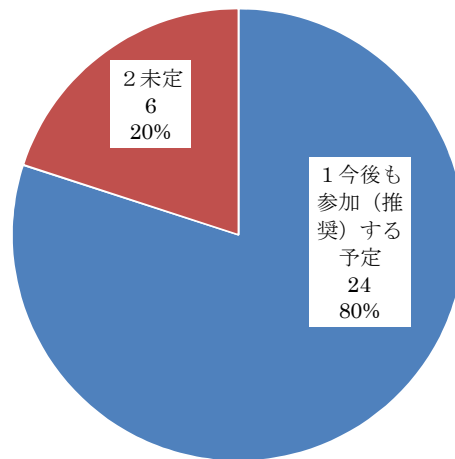
(3) (1)で「やや不満」「不満」を選択された学校にお伺いします。その理由は何ですか。(複数回答可)

|                    |                    |             |
|--------------------|--------------------|-------------|
| 1 自校でも運営できる事業であるため | 2 自校の教職員にニーズが少ないため | 3 その他（自由記述） |
|--------------------|--------------------|-------------|

「やや不満」「不満」を選択した学校が存在しないため、該当する回答なし。

(4) SD フォーラム事業に今後参加される（教職員に参加を推奨される）ご予定はおありですか。

1 今後も参加（推奨）する予定      2 未定      3 今後参加（推奨）する予定はない



無回答：9

(5) SD フォーラム事業についてお気づきの点がございましたら、ご記入ください。

- ・ 平日開催の事業があってもよいと考えられる。
- ・ 開催日が本学入試と重なっていたため、参加できる人数に限りがあった。
- ・ 私大連の研修やフォーラム等と日程が重ならないようにするとよいと思う。スケールメリットを生かしたフォーラム運営を今後も続けていただきたいと思う。
- ・ 参加費は適正と考える。
- ・ 報告書をもっと早くほしい。（内容を覚えている、開催後1，2ヶ月程度）
- ・ 案内のタイミングを早めてほしい。（詳細は後日で、日程とテーマだけでも8月1週目（大学が一斉休暇に入る前まで）に予告がほしい）
- ・ 職員研修については、自校のみで単独主催するには予算的問題があり活発な実施が困難。大学が置かれる社会環境、今日的な課題はいよいよ厳しくなっているので、たいへん貴重な機会となっています。
- ・ 基調講演に平田オリザさんのような“文化人”を選任されたことは非常に良かった。劇作家の視点での講演が大変参考になった。自分たちにはない視点からの公演は“気付き”が多いと考えている。

(6) 事業に参加されていない学校にのみお伺いします  
参加されていない理由は何ですか。

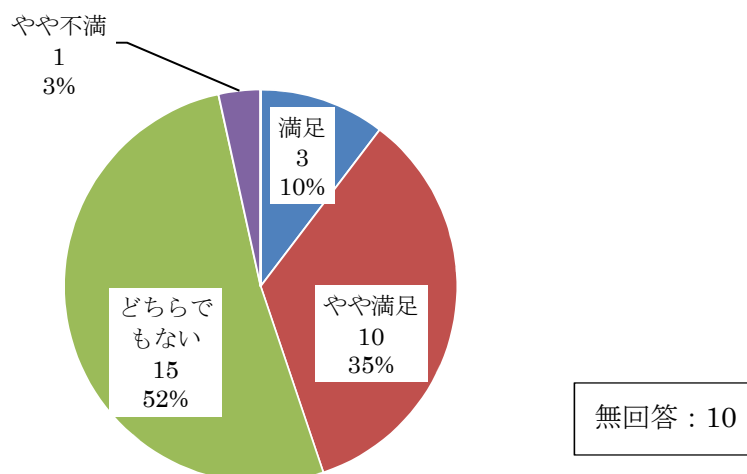
- ・ 新採職員用のマナー研修には参加しているが、SDフォーラムについては、テーマや日程の関係で参加していない。本学は、小規模な事務局組織であり、このような連携組織が実施する研修にも、今後、参加していきたいと考えている。
- ・ 短期大学規模では内容の合わない面があるため。

- ・SD の研修会には参加をうながしているが、現状では学内での SD 運営を充実させ、職員間のつながりや刺激を高めることに重きを置いている。
- ・大学職員の役割が重要であることは十分認識されており、問題意識は持ちつつも、専任職員が少なくなる中、日常業務に追われ、日曜日にまで自発的に参加するだけの意欲ある職員が得られていないのが実情である。
- ・教職員が協力して現在業務を遂行している中で、特に SD セミナーへの参加の必然性を感じられない。学内で発生する諸問題を誠実に受け止め、改善する積み重ねが重要と考える。
- ・業務負担が厳しく参加できていない。

## 【 7 】 高大連携教育フォーラム事業

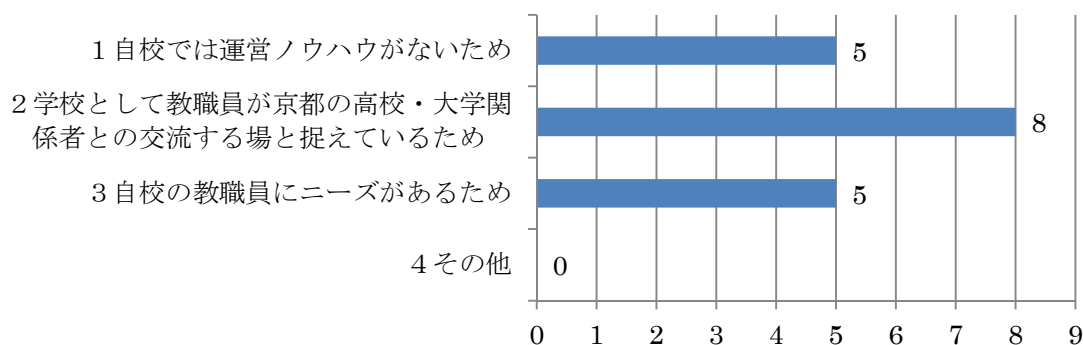
(1) 高大連携教育フォーラムについてお伺いします。この事業について貴校はどのようにお考えですか。

|   |    |   |      |   |         |   |      |   |    |
|---|----|---|------|---|---------|---|------|---|----|
| 1 | 満足 | 2 | やや満足 | 3 | どちらでもない | 4 | やや不満 | 5 | 不満 |
|---|----|---|------|---|---------|---|------|---|----|



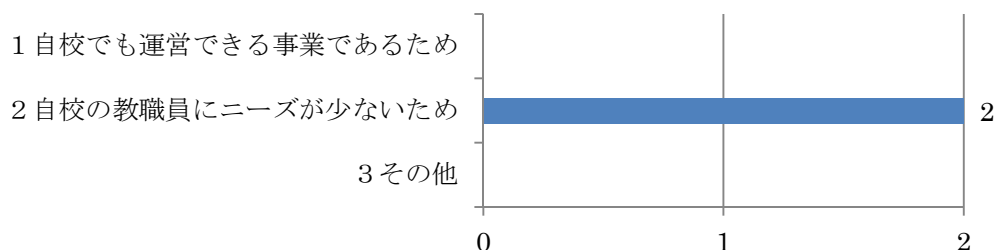
(2) (1)で「満足」「やや満足」を選択された学校にお伺いします。その理由は何ですか。(複数回答可)

|                   |                                       |                   |             |
|-------------------|---------------------------------------|-------------------|-------------|
| 1 自校では運営ノウハウがないため | 2 学校として教職員が京都の高校・大学関係者との交流する場と捉えているため | 3 自校の教職員にニーズがあるため | 4 その他（自由記述） |
|-------------------|---------------------------------------|-------------------|-------------|



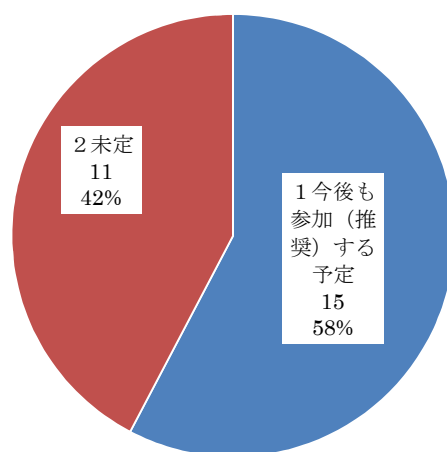
(3) (1)で「やや不満」「不満」を選択された学校にお伺いします。その理由は何ですか。(複数回答可)

1 自校でも運営できる事業であるため      2 自校の教職員にニーズが少ないため      3 その他（自由記述）



(4) 高大連携教育フォーラムに今後参加される（教職員に参加を推奨される）ご予定はおありですか。

1 今後も参加（推奨）する予定      2 未定      3 今後参加（推奨）する予定はない



無回答：13

(5) 高大連携教育フォーラムについてお気づきの点がございましたら、ご記入ください。

- ・ 本学も独自で行っているが小規模である。そのため今後も継続して事業を進めて欲しい。
- ・ 高大連携のあり方を模索しながら、本学独自のあり方を構築していきたいと考え、多くの参加をうながしているが、日程的に合わないこともあり、参加できなかった。
- ・ 毎年、分科会が高校の教育課程における実践事例を中心に教科ごとに実施されているが、加えて、大学にとって参考になる「全体的な高大連携の取組事例」を紹介する分科会もあれば良いと考える。
- ・ 事例発表に選ばれる高校が上位校に偏っているのではないかと？学力中、下位層も大学（短大含む）進学し全入の時代である昨今、基礎学力をつけさせるのは高大どちらなのかを押し付けあうのではなく、今一度、双方で考える必要がある。フォーラムがそのような場になればありがたい。



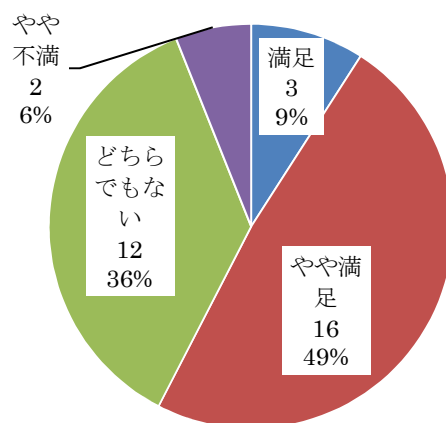
**(6) 事業に参加されていない学校にのみお伺いします**  
**参加されていない理由は何ですか。**

- ・高校の現場の今を知る貴重な機会と捉え、テーマによっては参加を検討したい。
- ・日程が合わないため。
- ・美術・音楽の実技中心の芸術大学のため、講演・事例報告・分科会の内容が教職員のニーズと一致しにくい。
- ・準備の関係でいたしかたないのは理解できるが、12月初旬の開催は日程として厳しい。本学の都合だけでいえば、8月、9月の開催がありがたい。
- ・学内での高大連携は、併設校との連携が独自の内容で進んでいるため、参加していない。
- ・実施されていることを知りませんでした。あと内容について、芸術教育に関するものがあれば参加します。
- ・「高大連携」という名称ではなく、「高大接続」というような名称に変更する方が、担当部署にしっかり届き、参加しやすいと思われる。
- ・高大連携教育フォーラムの内容について興味はありますが、業務多忙のため参加できておりません。
- ・平日開催という日程的な問題もあるが、フォーラムのテーマが「高大接続」に関するものとなっていながら、中等教育の課題を扱った内容（事例紹介など）に比重が置かれた構成となっていたことから、ここ2年の参加者が0名になったものと思われる。
- ・参加費用に対する効果が少ないと判断し、参加しておりません。

## 【8】生涯学習事業「京（みやこ）カレッジ」について

(1) 生涯学習事業についてお伺いします。この事業について貴校はどのようにお考えですか。

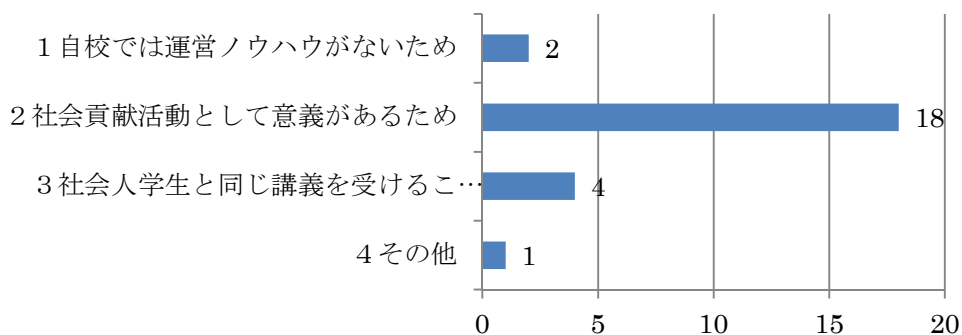
|      |        |           |        |      |
|------|--------|-----------|--------|------|
| 1 満足 | 2 やや満足 | 3 どちらでもない | 4 やや不満 | 5 不満 |
|------|--------|-----------|--------|------|



無回答：6

(2) (1)で「満足」「やや満足」を選択された学校にお伺いします。その理由は何ですか。(複数回答可)

- |                                |                    |
|--------------------------------|--------------------|
| 1 自校では運営ノウハウがないため              | 2 社会貢献活動として意義があるため |
| 3 社会人学生と同じ講義を受けることが自校生の刺激となるため | 4 その他（自由記述）        |

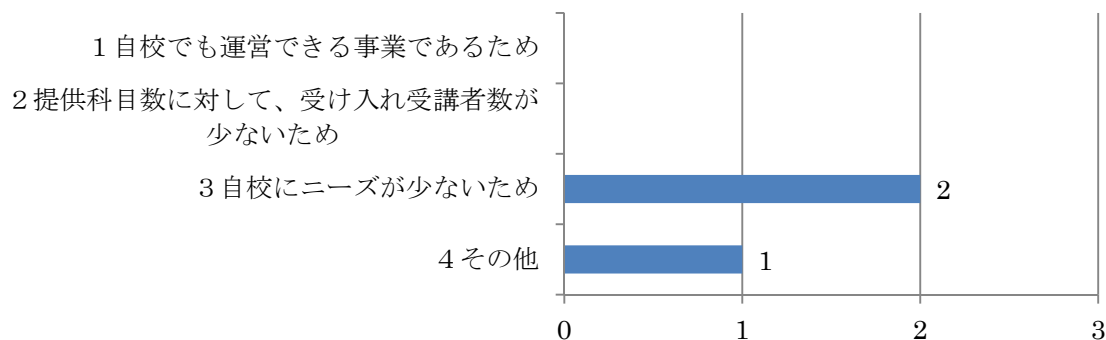


&lt;その他の意見&gt;

- ・会場の立地条件が良い。支援体制をしっかりと整えて頂いている。

## (3) (1)で「やや不満」「不満」を選択された学校にお伺いします。その理由は何ですか。(複数回答可)

- |                    |                            |
|--------------------|----------------------------|
| 1 自校でも運営できる事業であるため | 2 提供科目数に対して、受け入れ受講者数が少ないため |
| 3 自校にニーズが少ないため     | 4 その他（自由記述）                |

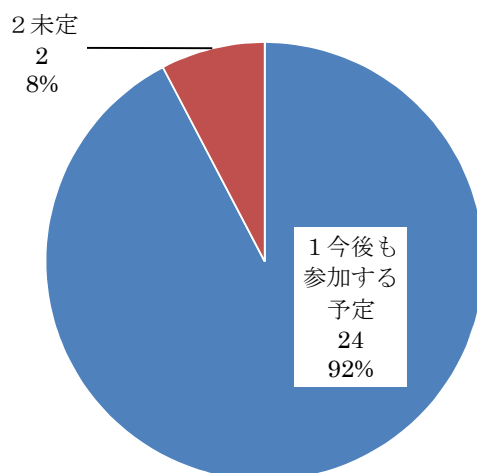


## &lt;その他の意見&gt;

- ・毎年受講される方もおられ、社会貢献活動としての意義はあると思うが、社会人の受講生がいることで落ち着かない学生もいるため、少なからず授業に支障が出る部分もあると思うため。

## (4) 生涯学習事業に今後参加されるご予定はありますか。

- |             |      |               |
|-------------|------|---------------|
| 1 今後も参加する予定 | 2 未定 | 3 今後参加する予定はない |
|-------------|------|---------------|



無回答：13

## (5) 生涯学習事業についてお気づきの点がございましたら、ご記入ください。

- ・京都を多面的に学ぶ講座の取組は良いと思う。
- ・本学でも科目等履修生制度を実施しているが、制度を十分に市民へ周知できているとは言い難い。「京カレッジ」への科目提供のメリットは、本学における生涯学習事業を広く周知できることにあると考えている。
- ・大学が独自に行っている科目等履修生制度サービスが重複している状況である。
- ・今年度、公募のあった 2016 年度京カレッジの市民教養講座「京都力養成コース」「教養力養成コース」に

ついて、フィールドワークを取り入れた講座であることなどの要件が緩和されると、より積極的な講座開設が可能となる。

- ・ 社会人の方のニーズ等、情報を得て提供科目を検討していきたい。

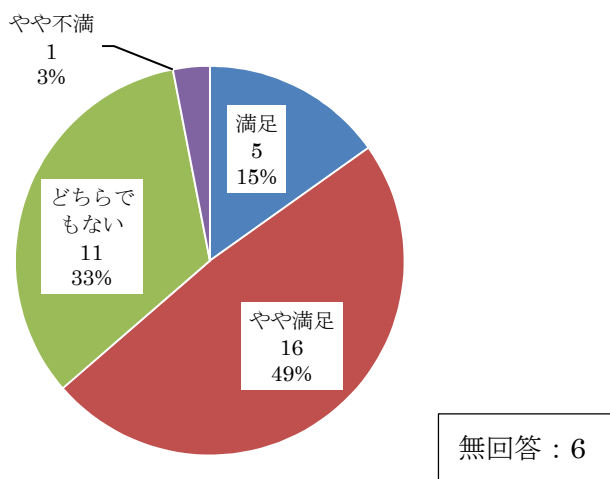
**(6) 事業に参加されていない学校にのみお伺いします**  
**参加されていない理由は何ですか。**

- ・ 小規模校ゆえ、教員数が少なく提供できる状況にない。
- ・ 本学では独自に生涯学習を目的とした（授業科目とは別の）講座を開講している。一方で正規科目はあくまで履修学生への教育を主たる目的としているため、目的の違う外部の方の参加は授業の趣旨から外れたものとなりかねない、と現状は判断している。
- ・ 教員の時間的余裕がないので今までは参加できていなかったが今後は提供できるよう検討していきたい。
- ・ 生涯学習事業へ提供できるリソースが不十分であるため。
- ・ 本学は市内から遠方でもあり、なかなか積極的に参加できる状況ではない。
- ・ 学内の科目を充実しているため、現時点では計画していないものの、将来的には参加することも考えられる。
- ・ 提供できる科目がないため。

## 【9】京都の大学「学び」フォーラム（以下、学びフォーラム）事業

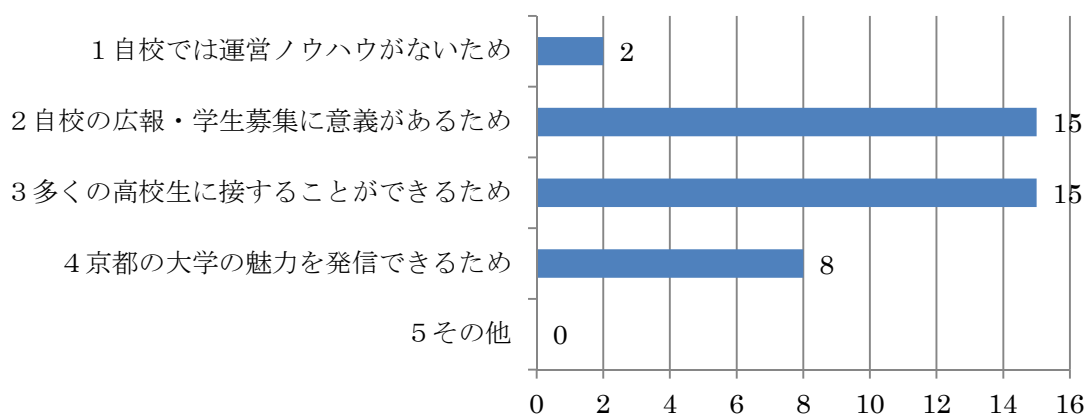
(1) 学びフォーラム事業についてお伺いします。この事業について貴校はどのようにお考えですか。

1 満足    2 やや満足    3 どちらでもない    4 やや不満    5 不満



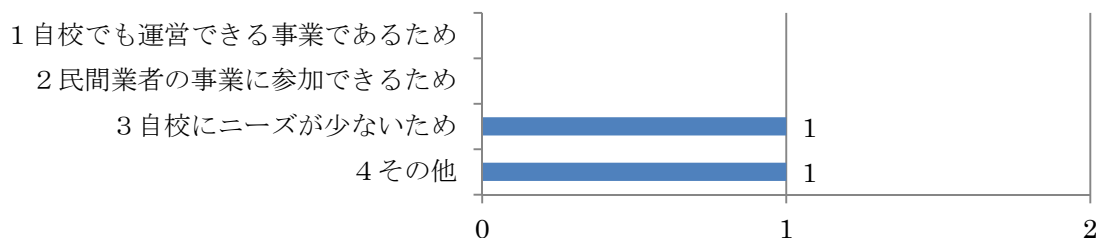
(2) (1)で「満足」「やや満足」を選択された学校にお伺いします。その理由は何ですか。(複数回答可)

1 自校では運営ノウハウがないため    2 自校の広報・学生募集に意義があるため  
 3 多くの高校生に接することができるため    4 京都の大学の魅力を発信できるため  
 5 その他（自由記述）



(3) (1)で「やや不満」「不満」を選択された学校にお伺いします。その理由は何ですか。(複数回答可)

- |                    |                   |
|--------------------|-------------------|
| 1 自校でも運営できる事業であるため | 2 民間業者の事業に参加できるため |
| 3 自校にニーズが少ないため     | 4 その他（自由記述）       |

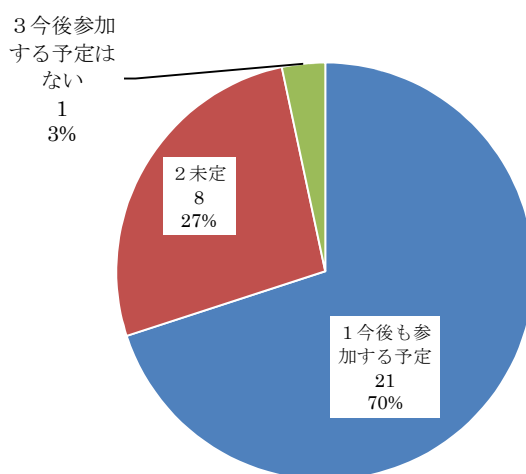


<その他の意見>

- ・ 学びフォーラムの運営における改善点として、今年度の個別相談会では、教室が3校一緒という形で受験生が若干教室に入りづらい様子であった。また、開催場所も今回は少しわかりにくかった様子であったため、改善の余地があると感じた。

(4) 学びフォーラム事業に今後参加されるご予定はありますか。

- |             |      |               |
|-------------|------|---------------|
| 1 今後も参加する予定 | 2 未定 | 3 今後参加する予定はない |
|-------------|------|---------------|



無回答：9

(5) 学びフォーラム事業についてお気づきの点がございましたら、ご記入ください。

- ・ 今年度は地元（府内）の相談者ばかりで、他の民間業者が開催する進学ガイダンスよりも相談者が少なかった。本学への志願者は大阪を始めとする近畿圏からの進学者が多いため、「大学のまち京都」のつながりは大切だが、他府県からの参加者増につながる取組が必要と感じる。
- ・ 本学は芸術大学であることから、芸術に特化した大学が参加している進学相談会に参加した方が効率的である。
- ・ 本学を知ってもらう良い機会には違いないが、時期的に参加が難しい。

- ・模擬授業の会場と個別相談ブースが離れているので、来場者の導線の工夫をしていただけると幸いです
- ・体験型講座に使用する機材等、搬入する車の駐車場を可能であれば学内に用意していただきたい。
- ・今回は会場の都合で講義メイン会場と相談ブースの場所が離れていたため少し動員が悪いように感じた。
- ・参加者はほとんど京都の高校生ですが、今日の大学、短大について知る良い機会なので滋賀県など他府県の高校生にももっと PR したほうがよいのではないのでしょうか。
- ・2014 年実施の「学びフォーラム」における「大学相談コーナー」は全ての大学が 1 フロアに集まっており、たくさんの高校生と接触できましたが今年は、模擬授業実施会場とは別の場所となり、大学も複数の教室に分かれる形だったので高校生が入りづらそうでした。来年は一昨年の来場者導線に戻していただくと助かります。
- ・本学ブースへの来場者が 4 名と少なく、できればスタンプラリー等を復活して頂き、もう少し多くの来場者にお越し頂きたい。
- ・同分野の模擬授業、体験型講義を同時時間帯に並行しないよう配慮してもらいたい。
- ・高校生がアクセスしやすい会場での開催が望ましい。
- ・民間業者が実施している校内ガイダンスをコンソーシアムで実施すべき。強く要望しており、6 年前から言っているが、全く回答がない。
- ・開催時期や場所について、受験生の動向に合わせた検討が必要。開催時期は推薦入試の志願先を決定する前が望ましい。
- ・大学相談ブースは広い空間で多数の大学がブースを構えられる方が良い。

**(6) 事業に参加されていない学校にのみお伺いします**  
**参加されていない理由は何ですか。**

- ・学びフォーラムの参加者数は年々減少しているものの、新しい企画が提起されないため。
- ・日程が合わないため。
- ・参加のための経費・人員がないため
- ・短大のニーズが年々減少している中での参加は厳しいのが現実である。
- ・入試日程等と重なっており、マンパワーが不足しているため参加していません。
- ・以前から参加を見送っているが、当時は設定会場と金額が一番の原因だったと思う。近年は、本学の状況を考え、より小規模な校内説明会等、確実に受験生と接触できるものを主体としているため。
- ・教員に余力がないため。
- ・参加費用に対する効果が少ないと判断するため。

## 大学コンソーシアム京都 事業に関するアンケート

### 目次

|                               |    |
|-------------------------------|----|
| 【0】ご回答表紙                      | 1  |
| 【1】単位互換事業                     | 2  |
| 【2】インターンシップ事業                 | 3  |
| 【3】京都学生祭典                     | 4  |
| 【4】京都から発信する政策研究交流大会           | 5  |
| 【5】FDフォーラム事業                  | 6  |
| 【6】SDフォーラム事業                  | 7  |
| 【7】高大連携教育フォーラム事業              | 8  |
| 【8】生涯学習事業「京(みやこ)カレッジ」事業       | 9  |
| 【9】京都の大学「学び」フォーラム事業           | 10 |
| 【10】各事業のご担当部署について             | 11 |
| 【11】その他の事業や大学コンソーシアム京都に対するご意見 | 11 |

2015年10月 公益財団法人 大学コンソーシアム京都

### ＜記入に際しての注意点＞

- ① 各アンケート対象事業に参加実績がない場合も、回答いただく内容となっています。お手数をお掛けしますが、全ての回答用紙に記入の上、返却いただきますようお願いいたします。
- ② 選択肢のある項目は、□欄に「レ」チェックをしてください。



大学・短期大学名 \_\_\_\_\_

大学コンソーシアム京都 事業に関するアンケート（回答）

別紙のとおり回答します。

&lt; 本件に関するお問い合わせ先 &gt;

ご 所 属 \_\_\_\_\_

ご 芳 名 \_\_\_\_\_

お電話番号 \_\_\_\_\_

e-mail アドレス \_\_\_\_\_

## 【1】単位互換事業について

- ・事業概要：<http://www.consortium.or.jp/project/tg/details>  
もしくは財団パンフレット P.2 をご参照ください。
- ・提供科目数と参加学生の実績

|        | 貴校の提供科目数 | 全体科目数 | 貴校科目への出願者数 | 貴校の送出し学生数 | 全体      |
|--------|----------|-------|------------|-----------|---------|
| 2013年度 |          | 540   | 人          | 人         | 5,754 人 |
| 2014年度 |          | 517   | 人          | 人         | 5,287 人 |

※ここ 2 ヶ年の実績がいずれも「0」の場合、(6)「不参加校にお伺いします」へ進んでください。

(1)単位互換事業についてお伺いします。この事業について貴校はどのようにお考えですか。

- ☐満足  
☐やや満足  
☐どちらでもない  
☐やや不満  
☐不満

(2) (1)で「満足」「やや満足」を選択された学校にお伺いします。その理由は何ですか。(複数回答可)

- ☐自校では運営ノウハウがないため  
☐学校として学生の大学間交流の機会と捉えているため  
☐自校生にニーズがあるため  
☐その他 \_\_\_\_\_

(3) (1)で「やや不満」「不満」を選択された学校にお伺いします。その理由は何ですか。(複数回答可)

- ☐自校の有する大学間連携でも運営できる事業であるため  
☐提供科目数に対して、受け入れ受講者数が少ないため  
☐自校生の受講数が少ないため  
☐自校生にニーズが少ないため  
☐その他 \_\_\_\_\_

(4)単位互換事業に今後参加されるご予定はありますか。

- ☐今後も参加する予定  
☐未定  
☐今後は参加する予定はない（お手数ですが、参加されない理由を以下の(5)にご記入ください）

(5)単位互換事業についてお気づきの点がございましたら、ご記入ください。

(6)&lt;事業に参加されていない学校にのみお伺いします&gt;

参加されていない理由は何ですか。

## 【2】インターンシップ事業

- ・事業概要：<http://www.consortium.or.jp/project/intern/detail>  
もしくは財団パンフレット P.3 をご参照ください。
- ・出願者・参加者実績

|         | 貴校（出願者） | 全体（出願者） | 貴校（参加者） | 全体（参加者） |
|---------|---------|---------|---------|---------|
| 2013 年度 | 人       | 617 人   | 人       | 453 人   |
| 2014 年度 | 人       | 611 人   | 人       | 432 人   |

※ここ 2 カ年の実績が「0」の場合、(6)「不参加校にお伺いします」へ進んでください。

(1)インターンシップ事業についてお伺いします。この事業について貴校はどのようにお考えですか。

- ☐満足  
☐やや満足  
☐どちらでもない  
☐やや不満  
☐不満

(2) (1)で「満足」「やや満足」を選択された学校にお伺いします。その理由は何ですか。(複数回答可)

- ☐自校では運営ノウハウがないため  
☐学校として学生の大学間交流の機会と捉えているため  
☐自校生にニーズがあるため  
☐その他

(3) (1)で「やや不満」「不満」を選択された学校にお伺いします。その理由は何ですか。(複数回答可)

- ☐自校でも運営できる事業であるため  
☐大学としてインターンシップを重視していないため  
☐自校生にニーズが少ないため  
☐その他

(4)インターンシップ事業に今後参加される（学生に参加を推奨される）ご予定はありますか。

- ☐今後も参加（推奨）する予定  
☐未定  
☐今後参加（推奨）する予定はない（お手数ですが、参加されない理由を以下の(5)にご記入ください）

(5)インターンシップ事業についてお気づきの点がございましたら、ご記入ください。

(6)＜事業に参加されていない学校にのみお伺いします＞

参加されていない理由は何ですか。

## 【3】京都学生祭典について

- ・事業概要：<http://www.consortium.or.jp/project/kif/detail>  
もしくは財団パンフレット P.5 をご参照ください。
- ・実行委員（短期スタッフも含む）・おどり手としての参加実績

|         | 貴校（実行委員） | 全体（実行委員） | 貴校（おどり手） | 全体（おどり手） |
|---------|----------|----------|----------|----------|
| 2013 年度 | 人        | 528 人    | 人        | 1,134 人  |
| 2014 年度 | 人        | 504 人    | 人        | 995 人    |

※ここ 2 カ年の実績がいずれも「0」の場合、(6)「不参加校にお伺いします」へ進んでください。

(1)京都学生祭典についてお伺いします。この事業について貴校はどのようにお考えですか。

- ☐満足  
☐やや満足  
☐どちらでもない  
☐やや不満  
☐不満

(2) (1)で「満足」「やや満足」を選択された学校にお伺いします。その理由は何ですか。(複数回答可)

- ☐学校として学生の大学間交流の機会と捉えているため  
☐学生の社会人との接点の場として捉えているため  
☐地域貢献活動の一環として捉えているため  
☐自校生にニーズがあるため  
☐その他

(3) (1)で「やや不満」「不満」を選択された学校にお伺いします。その理由は何ですか。(複数回答可)

- ☐自校生にニーズが少ないため  
☐学生の課外活動のため、関知していないため  
☐その他

(4)京都学生祭典に今後学生に参加を推奨される ご予定はありますか。

- ☐今後も参加（推奨）する予定  
☐未定  
☐今後参加（推奨）する予定はない（お手数ですが、参加されない理由を以下の(5)にご記入ください）

(5)京都学生祭典についてお気づきの点がございましたら、ご記入ください。

(6)＜事業に参加されていない学校にのみお伺いします＞

参加されていない理由は何ですか。

## 【4】京都から発信する政策研究交流大会（以下、政策研究交流大会）

- ・事業概要：<http://www.consortium.or.jp/project/seisaku/conference>  
もしくは財団パンフレット P.6 をご参照ください。
- ・参加者（教職員・学生合計）実績

|         | 貴校 | 全体    |
|---------|----|-------|
| 2013 年度 | 人  | 362 人 |
| 2014 年度 | 人  | 377 人 |

※ここ 2 カ年の実績が「0」の場合、(6)「不参加校にお伺いします」へ進んでください。

(1)政策研究交流大会についてお伺いします。この事業について貴校はどのようにお考えですか。

- ☐満足  
☐やや満足  
☐どちらでもない  
☐やや不満  
☐不満

(2) (1)で「満足」「やや満足」を選択された学校にお伺いします。その理由は何ですか。 (複数回答可)

- ☐自校では運営ノウハウがないため  
☐学校として教職員の大学間交流の機会と捉えているため  
☐学校として学生の大学間交流の機会と捉えているため  
☐自校生にニーズがあるため  
☐その他

(3) (1)で「やや不満」「不満」を選択された学校にお伺いします。その理由は何ですか。 (複数回答可)

- ☐自校の教職員にニーズが少ないため  
☐自校生にニーズが少ないため  
☐その他

(4)政策研究交流大会に今後参加される（教職員・学生に参加を推奨される）ご予定はありますか。

- ☐今後も参加（推奨）する予定  
☐未定  
☐今後参加（推奨）する予定はない（お手数ですが、参加されない理由を以下の(5)にご記入ください）

(5)政策研究交流大会についてお気づきの点がございましたら、ご記入ください。

(6)＜事業に参加されていない学校にのみお伺いします＞

参加されていない理由は何ですか。

## 【5】FD フォーラム事業

- ・事業概要：<http://www.consortium.or.jp/project/fd/forum/2014-1>  
もしくは財団パンフレット P.2 をご参照ください。
- ・参加者実績

|         | 貴校 | 全体    |
|---------|----|-------|
| 2013 年度 | 人  | 729 人 |
| 2014 年度 | 人  | 797 人 |

※ここ 2 カ年の実績が「0」の場合、(6)「不参加校にお伺いします」へ進んでください。

(1)FD フォーラム事業についてお伺いします。この事業について貴校はどのようにお考えですか。

- ☐満足  
☐やや満足  
☐どちらでもない  
☐やや不満  
☐不満

(2) (1)で「満足」「やや満足」を選択された学校にお伺いします。その理由は何ですか。 (複数回答可)

- ☐自校では運営ノウハウがないため  
☐自校教職員が FD の知見を得られるため  
☐学校として教職員の大学間交流の機会と捉えているため  
☐その他

(3) (1)で「やや不満」「不満」を選択された学校にお伺いします。その理由は何ですか。 (複数回答可)

- ☐自校でも運営できる事業であるため  
☐自校の教職員にニーズが少ないため  
☐その他

(4)FD フォーラム事業に今後参加される（教職員に参加を推奨される）ご予定はありますか。

- ☐今後も参加（推奨）する予定  
☐未定  
☐後は参加（推奨）する予定はない（お手数ですが、参加されない理由を以下の(5)にご記入ください）

(5)FD フォーラム事業についてお気づきの点がございましたら、ご記入ください。

(6)＜事業に参加されていない学校にのみお伺いします＞

参加されていない理由は何ですか。

## 【6】SD フォーラム事業

- ・事業概要：<http://www.consortium.or.jp/project/sd/forum>  
もしくは財団パンフレット P.2 をご参照ください。
- ・参加者実績

|         | 貴校 | 全体    |
|---------|----|-------|
| 2013 年度 | 人  | 139 人 |
| 2014 年度 | 人  | 153 人 |

※ここ 2 カ年の実績が「0」の場合、(6)「不参加校にお伺いします」へ進んでください。

(1)SD フォーラム事業についてお伺いします。この事業について貴校はどのようにお考えですか。

- ☐満足  
☐やや満足  
☐どちらでもない  
☐やや不満  
☐不満

(2) (1)で「満足」「やや満足」を選択された学校にお伺いします。その理由は何ですか。(複数回答可)

- ☐自校では運営ノウハウがないため  
☐自校教職員がSDの知見を得られるため  
☐学校として教職員の大学間交流の機会と捉えているため  
☐その他

(3) (1)で「やや不満」「不満」を選択された学校にお伺いします。その理由は何ですか。(複数回答可)

- ☐自校でも運営できる事業であるため  
☐自校の教職員にニーズが少ないため  
☐その他

(4)SD フォーラム事業に今後参加される（教職員に参加を推奨される）ご予定はありますか。

- ☐今後も参加（推奨）する予定  
☐未定  
☐今後参加（推奨）する予定はない（お手数ですが、参加されない理由を以下の(5)にご記入ください）

(5)SD フォーラム事業についてお気づきの点がございましたら、ご記入ください。

(6)＜事業に参加されていない学校にのみお伺いします＞

参加されていない理由は何ですか。

## 【7】高大連携教育フォーラム事業

- ・事業概要：<http://www.consortium.or.jp/project/kodai/education-forum>  
もしくは財団パンフレット P.3 をご参照ください。
- ・参加者実績

|         | 貴校 | 全体    |
|---------|----|-------|
| 2013 年度 | 人  | 196 人 |
| 2014 年度 | 人  | 239 人 |

※ここ 2 カ年の実績が「0」の場合、(6)「不参加校にお伺いします」へ進んでください。

(1)高大連携教育フォーラムについてお伺いします。この事業について貴校はどのようにお考えですか。

- ☐満足  
☐やや満足  
☐どちらでもない  
☐やや不満  
☐不満

(2) (1)で「満足」「やや満足」を選択された学校にお伺いします。その理由は何ですか。(複数回答可)

- ☐自校では運営ノウハウがないため  
☐学校として教職員が京都の高校・大学関係者との交流する場と捉えているため  
☐自校の教職員にニーズがあるため  
☐その他

(3) (1)で「やや不満」「不満」を選択された学校にお伺いします。その理由は何ですか。(複数回答可)

- ☐自校でも運営できる事業であるため  
☐自校の教職員にニーズが少ないため  
☐その他

(4)高大連携教育フォーラムに今後参加される（教職員に参加を推奨される）ご予定はありますか。

- ☐今後も参加（推奨）する予定  
☐未定  
☐今後参加（推奨）する予定はない（お手数ですが、参加されない理由を以下の(5)にご記入ください）

(5)高大連携教育フォーラムについてお気づきの点がございましたら、ご記入ください。

(6)＜事業に参加されていない学校にのみお伺いします＞

参加されていない理由は何ですか。

## 【8】生涯学習事業「京（みやこ）カレッジ」について

- ・事業概要：<http://www.consortium.or.jp/project/sg/details>  
もしくは財団パンフレット P.2 をご参照ください。
- ・提供科目と出願者（延べ人数）実績

|         | 貴校提供科目数 | 貴校科目への出願者数 | 全体      |
|---------|---------|------------|---------|
| 2013 年度 |         | 人          | 1,114 人 |
| 2014 年度 |         | 人          | 1,748 人 |

※ここ 2 カ年の実績がいずれも「0」の場合、(6)「不参加校にお伺いします」へ進んでください。

(1)生涯学習事業についてお伺いします。この事業について貴校はどのようにお考えですか。

- ☐満足  
☐やや満足  
☐どちらでもない  
☐やや不満  
☐不満

(2) (1)で「満足」「やや満足」を選択された学校にお伺いします。その理由は何ですか。(複数回答可)

- ☐自校では運営ノウハウがないため  
☐社会貢献活動として意義があるため  
☐社会人学生と同じ講義を受けることが自校生の刺激となるため  
☐その他

(3) (1)で「やや不満」「不満」を選択された学校にお伺いします。その理由は何ですか。(複数回答可)

- ☐自校でも運営できる事業であるため  
☐提供科目数に対して、受け入れ受講者数が少ないため  
☐自校にニーズが少ないため  
☐その他

(4)生涯学習事業に今後参加されるご予定はありますか。

- ☐今後も参加する予定  
☐未定  
☐今後は参加する予定はない（お手数ですが、参加されない理由を以下の(5)にご記入ください）

(5)生涯学習事業についてお気づきの点がございましたら、ご記入ください。

(6)＜事業に参加されていない学校にのみお伺いします＞

参加されていない理由は何ですか。

## 【9】京都の大学「学び」フォーラム（以下、学びフォーラム）事業

- ・事業概要：<http://www.consortium.or.jp/project/kodai/manabi-forum>  
もしくは財団パンフレット P.3 をご参照ください。
- ・説明ブース・模擬/体験授業参加状況（注）2013 年度は京都・滋賀で開催しましたが、下記は京都会場実績です。

|         | 貴校（ブース） | 全体（ブース）     | 貴校（模擬/体験） | 全体（模擬/体験）   | 参加者（高校生他） |
|---------|---------|-------------|-----------|-------------|-----------|
| 2013 年度 | 参加      | 25 校（41 校中） | 不参加       | 26 校（41 校中） | 2,671 人   |
| 2014 年度 | 不参加     | 29 校（41 校中） | 参加        | 28 校（41 校中） | 1,985 人   |

※ここ 2 カ年の実績がいずれも「不参加」の場合、(6)「不参加校にお伺いします」へ進んでください。

(1)学びフォーラム事業についてお伺いします。この事業について貴校はどのようにお考えですか。

- ☐満足  
☐やや満足  
☐どちらでもない  
☐やや不満  
☐不満

(2) (1)で「満足」「やや満足」を選択された学校にお伺いします。その理由は何ですか。(複数回答可)

- ☐自校では運営ノウハウがないため  
☐自校の広報・学生募集に意義があるため  
☐多くの高校生に接することができるため  
☐京都の大学の魅力を発信できるため  
☐その他

(3)で「やや不満」「不満」を選択された学校にお伺いします。その理由は何ですか。(複数回答可)

- ☐自校でも運営できる事業であるため  
☐民間業者の事業に参加できるため  
☐自校にニーズが少ないため  
☐その他

(4)学びフォーラム事業に今後参加されるご予定はありますか。

- ☐今後も参加する予定  
☐未定  
☐今後は参加する予定はない（お手数ですが、参加されない理由を以下の(5)にご記入ください）

(5)学びフォーラム事業についてお気づきの点がございましたら、ご記入ください。

(6)＜事業に参加されていない学校にのみお伺いします＞

参加されていない理由は何ですか。

【10】個別お問い合わせいただきました事業において貴校のご担当部署をご記入ください。  
(差し支えない範囲でご記入ください)

| 事業名                | ご担当部署    |
|--------------------|----------|
| (例1) ●●事業          | 教務部 教務課  |
| (例2) ◆◆事業          | 特に定めていない |
| 単位互換事業             |          |
| インターンシップ事業         |          |
| 京都学生祭典             |          |
| 政策研究交流大会           |          |
| F Dフォーラム事業         |          |
| S Dフォーラム事業         |          |
| 高大連携教育フォーラム事業      |          |
| 生涯学習事業「京（みやこ）カレッジ」 |          |
| 学びフォーラム事業          |          |

【11】アンケートで個別にお伺いした以外の事業や大学コンソーシアム京都について  
お気づきの点がございましたら、ご記入ください。(例：取り組むべき事業等)

大学コンソーシアム京都 事業に関するアンケートは以上です。

本ページ、ご回答表紙を含め、11 ページをメールもしくはFAXにてご返信  
くださいますようお願いいたします。

この度はご協力いただき、誠にありがとうございました。

## 加盟校に対するアンケートと検証

### 異なる性質の事業評価

事業にはそれぞれ異なる特徴があり、一つの指標で評価するのは難しいが、限られた資源を活用して事業を改廃し、より発展的に展開するためには、比較検討する指標が必要となる。

事業の特徴を分類する基準を以下に列挙する。

- 形態：講習・研修形態と講演会・シンポジウム形態
- 日数：単一開催（1日）とシリーズ開催（複数日程）
- 規模：募集人数
- 合格要件：資格取得・更新などの達成要件の有無
- 参加目的：派遣、義務と自主的参加

評価基準として考えられるものを以下に列挙する。

1. 需要：申込件数、定員充足率など
2. 満足度：受講者の満足度、加盟校の満足度、社会（受入企業や就職先など）の満足度
3. 達成度：申込時点での目標と終了時点での目標充足の差異
4. 財団としての意義：各学校法人で開催できるものか、財団でやるべき事業か

1の需要は量的に測定可能であり、その推移を見ることができ、事業間を比較する場合、形態、日程、規模、合格要件、参加目的、さらに難易度によって応募数は異なるので、潜在需要の有無については配慮する必要がある。

2の満足度の内、受講者については事業ごとに最終時点で実施するアンケートで把握している。加盟校については加盟校アンケートを実施した。社会の満足度は今後の課題である。

3の達成度については事業ごとに最終時点で実施するアンケート項目に含めている例があるものの、すべての事業で把握しているわけではない。

4の財団としての意義については、加盟校アンケートと並行して、参加者の所属法人の割合などを比較することで把握できるものと思われる。

上記の内、満足度について事業評価を試みる。

### 加盟校満足度調査

大学コンソーシアム京都が実施する事業は、参加者のみならずさまざまな利害関係者が存在する。もっとも重要なのは加盟大学であるが、加えて京都市、京都府、インターンシップに協力してくれている企業、卒業生、卒業生の就職先、保護者などである。そのような利害関係者の意見を聴取した上でよりよい方向に改善するべきであるが、すべてを対象とすることは容易ではない。そこで、もっとも重要な利害関係者である加盟大学に対して、大学コンソーシアム京都が実施する代表的な9事業について満足度を調査する。

加盟校満足度調査の結果を集計したものを表 1 に示す。ただし、今回の調査期間中には回答を得られなかった 2 校を除く 39 校について集計した。単位互換から学びフォーラムまで 9 事業について 5 段階で満足度を評価してもらった。数値は「満足」を 5 とし、「どちらでもない」を 3 とし、「不満」を 1 とする 5 点満点で表している。「無回答」は空白とする。すべての得点の平均は 3.7、標準偏差は 2.74 であり、いずれの大学の評価の平均も 5 パーセントの信頼区間に収まっており、大学によって評価の甘辛度に大きな差があるとは言えない。各大学の満足度と外的要因との関連を見たところ、大学の規模（学生数）と「やや相関あり」と判断できるのは“インターンシップ事業”と“政策研究交流事業”であり、「弱い相関あり」と判断できるのは“学生祭典事業”であるが、その他の事業は「ほとんど相関なし」と判断してよい<sup>1</sup>。大学と大学コンソーシアム京都間の所要時間ともあまり相関がないこと<sup>2</sup>が分かった。

表 1 加盟校満足度調査結果

| 加盟校  | 平均(満足度) | 単位互換 | インターンシップ | 学生祭典 | 政策大会 | FDフォーラム | SDフォーラム | 高大連携フォーラム | 京カレッジ | 学びフォーラム |
|------|---------|------|----------|------|------|---------|---------|-----------|-------|---------|
| U01  | 3.0     | 3    | 3        | 3    | 2    | 4       | 3       | 3         | 4     | 2       |
| U02  | 3.3     | 2    | 3        | 4    |      | 4       | 3       | 5         | 2     | 3       |
| U03  | 3.6     | 5    | 5        | 3    |      | 4       | 4       | 2         | 3     | 3       |
| U04  | 3.3     | 5    |          | 3    |      | 3       | 3       | 3         | 3     | 3       |
| U05  | 4.1     | 4    | 5        | 5    | 5    | 4       | 4       | 4         | 3     | 3       |
| U06  | 3.0     | 3    |          | 2    |      | 4       |         |           | 3     | 3       |
| U07  | 3.1     | 4    | 2        | 3    | 3    | 3       | 3       | 3         | 4     | 3       |
| U08  | 3.1     | 2    | 2        | 3    | 3    | 4       | 4       | 3         | 4     | 3       |
| U09  | 4.1     | 5    | 5        | 5    | 5    | 2       | 4       | 4         | 4     | 3       |
| U10  | 4.1     | 4    | 5        | 2    | 5    | 4       | 5       | 5         | 4     | 3       |
| U11  | 3.3     | 3    |          | 3    |      |         | 4       |           |       | 3       |
| U12  | 3.4     | 3    | 4        | 3    |      | 4       | 4       | 3         | 2     | 4       |
| U13  | 3.1     | 3    | 3        | 3    | 3    | 3       | 3       | 3         | 3     | 4       |
| U14  | 3.1     | 3    |          |      | 3    | 3       | 3       | 3         | 3     | 4       |
| U15  | 3.4     | 5    | 3        | 2    |      | 3       | 4       | 3         | 3     | 4       |
| U16  | 3.8     | 3    | 3        | 4    |      | 5       | 5       | 3         | 3     | 4       |
| U17  | 4.0     | 4    | 5        | 5    | 3    | 5       | 3       | 4         | 3     | 4       |
| U18  | 3.9     | 4    | 5        | 3    | 4    | 4       | 4       | 3         | 4     | 4       |
| U19  | 3.8     | 4    | 2        | 3    |      | 5       | 5       | 3         | 4     | 4       |
| U20  | 3.9     | 4    | 4        | 4    |      | 4       | 3       | 4         | 4     | 4       |
| U21  | 4.0     | 4    | 4        | 4    | 3    | 4       | 5       | 4         | 4     | 4       |
| U22  | 4.3     | 4    | 5        | 4    | 5    | 4       | 5       | 4         | 4     | 4       |
| U23  | 4.3     | 4    | 4        | 4    |      | 5       | 5       |           | 4     | 4       |
| U24  | 4.3     | 5    | 5        | 4    | 4    | 4       | 4       | 4         | 5     | 4       |
| U25  | 4.3     | 5    |          | 4    |      | 5       | 5       | 3         |       | 4       |
| U26  | 3.5     |      |          |      | 3    |         |         |           |       | 4       |
| U27  | 3.6     | 3    |          | 5    | 3    | 4       | 3       | 3         | 3     | 5       |
| U28  | 3.6     | 4    | 2        | 3    |      |         | 3       | 4         | 4     | 5       |
| U29  | 4.3     | 4    |          | 4    |      | 5       | 4       | 4         | 4     | 5       |
| U30  | 4.3     | 4    | 4        | 5    | 3    | 5       | 4       |           | 4     | 5       |
| U31  | 4.6     | 5    | 5        | 3    |      | 5       | 5       | 4         | 5     | 5       |
| U32  | 3.3     | 2    | 5        | 3    | 3    | 4       | 3       | 3         | 3     |         |
| U33  | 3.8     | 4    | 4        | 4    | 4    | 4       |         |           | 3     |         |
| U34  | 3.5     | 4    | 5        | 1    | 3    | 3       | 3       | 5         | 4     |         |
| U35  | 3.3     | 4    | 5        | 1    | 3    | 3       |         |           | 4     |         |
| U36  | 4.8     | 5    |          | 4    |      | 5       |         |           | 5     |         |
| U37  | 4.0     |      |          |      |      | 4       |         |           |       |         |
| U38  | 5.0     |      |          | 5    |      |         |         |           |       |         |
| U39  | 3.5     |      |          | 3    |      |         | 4       | 3         |       | 4       |
| 平均   | 3.7     | 3.8  | 4.0      | 3.4  | 3.5  | 4.0     | 3.9     | 3.5       | 3.6   | 3.8     |
| 標準偏差 | 0.88    | 0.89 | 1.13     | 1.05 | 0.89 | 0.78    | 0.79    | 0.74      | 0.75  | 0.75    |
| 回答数  | 278     | 35   | 27       | 36   | 20   | 34      | 32      | 29        | 33    | 32      |
| 最大値  |         | 5    | 5        | 5    | 5    | 5       | 5       | 5         | 5     | 5       |
| 最小値  |         | 2    | 2        | 1    | 2    | 2       | 3       | 2         | 2     | 2       |
| 5    |         | 8    | 12       | 6    | 4    | 9       | 8       | 3         | 3     | 5       |
| 4    |         | 16   | 6        | 11   | 3    | 17      | 12      | 10        | 16    | 16      |
| 3    |         | 8    | 5        | 14   | 12   | 7       | 12      | 15        | 12    | 10      |
| 2    |         | 3    | 4        | 3    | 1    | 1       | 0       | 1         | 2     | 1       |
| 1    |         | 0    | 0        | 2    | 0    | 0       | 0       | 0         | 0     | 0       |

<sup>1</sup> 相関係数 : 0.1575<sup>2</sup> 相関係数 : 0.0638



事業別に加盟校の満足度を見たものが図 1 である。これによると FD フォーラム、インターンシップの評価は高く、京カレッジ、高大連携フォーラム、政策研究交流大会、学生祭典の満足度は全平均を下回っていることがわかる。

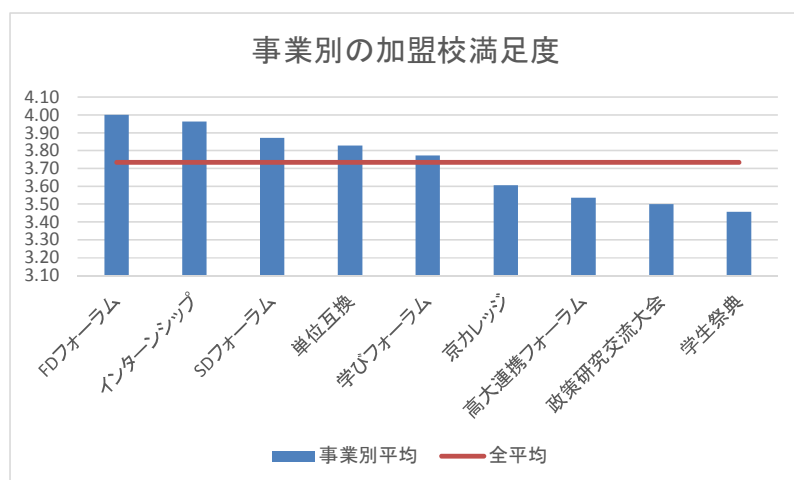


図 1 事業別の加盟校満足度

これを DI 値<sup>3</sup>で見たものを図 2 に示す。これによると 9 事業すべてにおいて、DI 値はプラスであり、マイナス評価よりもプラス評価の方が上回っている。FD フォーラムの満足度はここでも高いものの、インターンシップよりも単位互換、SD フォーラム、学びフォーラム、<sup>みやこ</sup>京カレッジの満足度が高いことがわかる。

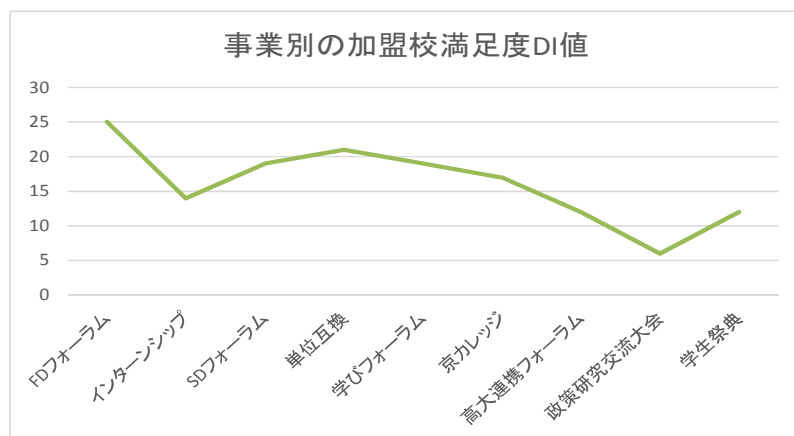


図 2 事業別の加盟校満足度 DI 値

### 参加者（受講者）の満足度

<sup>3</sup> DI (Diffusion Index) 値とは、「良い／悪い」「上昇／下落」といった定性的な指標を数値化して、単一の値に集約する加工統計手法のこと。または、この方法によって得られた指数をいう。DI は、時系列データであれば値の増加（プラス）／減少（マイナス）、サーベイデータ（アンケートなど）であれば回答を良い／悪いなどの属性に分類し、その属性の個数を集計して全系列数に占める割合などから算出する。

もともとは循環する景気の動きを計測するために、NBER（全米経済研究所）でウェスリー・C・ミッチェル（Wesley Clair Mitchell）らが 1938 年に開発したもので、現在でも内閣府が毎月公表している「景気動向指数」の算出などに使われている。DI の具体的な算出方法は、指標によって異なる。  
<http://www.itmedia.co.jp/im/articles/0707/09/news108.html>

他方、参加者(受講者)を対象とした満足度調査の集計は資料 2 に示すとおりである。従来、事業ごとにアンケートを実施していたが、その質問に満足度の項目を設けていない事業や年度があり、9 事業の内、6 事業について集計したものを図 3 に示す。

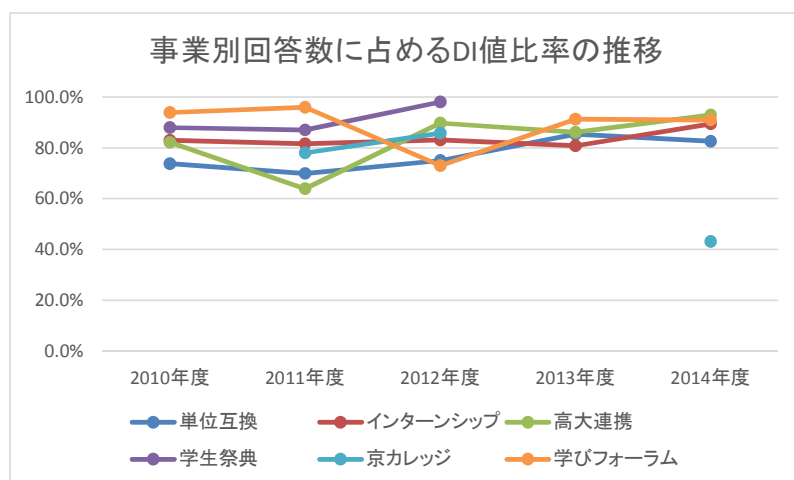


図 3

一部の年度でデータの欠落があるが、およその傾向と満足度の年度別推移はこれらの集計から類推することは可能である。これによると、すべての事業で DI 値はプラスであり、回答数に占める DI 値の割合は高いことから、参加者（受講者）の満足度はいずれも高いことがわかる。なお、京カレッジ 2014 年度の回答数に占める DI 値の割合が極端に他と異なるのはアンケートの実施方法を変更し回収率が低かったことによるものであることが確認されている。

### 加盟校と参加者との満足度の相関

各事業に対する加盟校の満足度と参加者の満足度にかい離があることがわかった。そこで、いくつかの指標を用いて分析した結果、各大学の在 student 数に占める参加者（受講者）の割合（ここでは参加率<sup>4</sup>と呼ぶ）と加盟校の満足度に関係がみられることがわかった。言い換えると、各加盟校では自校学生が参加している割合が高いほど関心を持ち、評価も高くなる傾向にあることがうかがえる。

参加率と加盟校の満足度との相関係数を表 2 に示す。なお、参加者数は 2014 年度の実績を用い、在 student 数は 2015 年 5 月現在のものを用いた。

表 2

| 事業名      | 参加率との相関 | 判断     |
|----------|---------|--------|
| 政策研究交流   | 0.527   | やや相関あり |
| インターンシップ | 0.408   | やや相関あり |
| 学生祭典     | 0.315   | 弱い相関あり |
| 単位互換     | 0.306   | 弱い相関あり |
| 高大連携     | 0.287   | 弱い相関あり |
| SDフォーラム  | 0.285   | 弱い相関あり |
| FDフォーラム  | 0.272   | 弱い相関あり |

<sup>4</sup>大学ごと・事業ごとに以下の式で算出する。  
 (参加率) = (参加者数) ÷ (在 student 数)

この集計から、次のことが言える。7事業のいずれも正の相関がある。すなわち、参加率が高いほど加盟校の評価が高くなる傾向にある。“政策研究交流事業”、“インターンシップ”には「やや相関がある」と判断できる。

これまでの分析を総合すると、加盟大学の評価（満足度）は、大学の規模や大学コンソーシアム京都へのアクセス・利便性にはあまり影響はなく、自校の学生あるいは教職員の参加割合が高いほど満足と判断していることがわかる。他方、参加者（受講者）の多くは満足している。学生祭典については、多くのスタッフ、踊り手、来場者があるにも拘らず、加盟大学の満足度が低いことから、担当者にその内容が十分周知されているかを再確認する必要があるように見える。

以上

## 加盟校および加盟団体と共有する事業データ

### <●●事業概要> (200字程度の事業概要を記載予定)

●●事業は▲▲の問題・課題を見つけ、それを解決するための研究を行う◆◆が日ごろの研究成果を発表する場として、2005年度より始まり、今年で11回目を迎えました。

今年度は、例年の「▲▲政策全般」というテーマに加え、特に、「★★」「○○」をテーマにした発表を募集しました。

### <●●事業データ>

|                 | 2016年度 | 2017年度 | 2018年度 |
|-----------------|--------|--------|--------|
| 参加者数 (人)        | 96     |        |        |
| 参加者目標数 (人)      | 100    |        |        |
| 目標数充足率          | 96.0%  |        |        |
| 参加者アンケート回収率     | 19.8%  |        |        |
| 参加者アンケート回収数 (件) | 19     |        |        |
| 参加者満足度DI値※      | 47.4   |        |        |
| 満足 (人)          | 8      |        |        |
| やや満足 (人)        | 6      |        |        |
| どちらでもない (人)     | 2      |        |        |
| やや不満 (人)        | 4      |        |        |
| 不満 (人)          | 1      |        |        |
| 他者推奨DI値※        | 46.7   |        |        |
| 推奨したい (人)       | 6      |        |        |
| やや推奨したい (人)     | 5      |        |        |
| どちらでもない (人)     | 3      |        |        |
| あまり推奨したくない (人)  | 3      |        |        |
| 推奨できない (人)      | 1      |        |        |
| 事業費 (収入) (千円)   | 1,200  |        |        |
| 事業費 (支出) (千円)   | 2,000  |        |        |

### <「満足度」に関する主な意見 (2016年度) >

- ・他大学の◆◆の研究内容を知ることができて有意義だった。
- ・事前準備が大変だったが、良い講評を得られて、今後の研究の参考になった。
- ・たくさんの発表があったが、自分の発表に精一杯で他の発表をみる余裕がなかった。その時間があってもいいかも。

### <「改善すべき点」に関する主な意見 (2016年度) >

- ・成果報告書をできるだけ早く作成してほしい。
- ・移動しやすいよう、ワンフロアの会場を検討してほしい。
- ・募集期間をもう少し長くしてほしい。

#### ※DI (Diffusion Index) 値とは

「良い／悪い」「上昇／下落」といった定性的な指標を数値化して、単一の値に集約する加工統計手法のこと。または、この方法によって得られた指数をいう。DIは、時系列データであれば値の増加（プラス）／減少（マイナス）、サーベイデータ（アンケートなど）であれば回答を良い／悪いなどの属性に分類し、その属性の個数を集計して全系列数に占める割合などから算出する。

<http://www.itmedia.co.jp/im/articles/0707/09/news108.html>

<次ページへ続く>

## 加盟校と共有する事業データ

&lt;●●事業 学校別参加者内訳&gt;

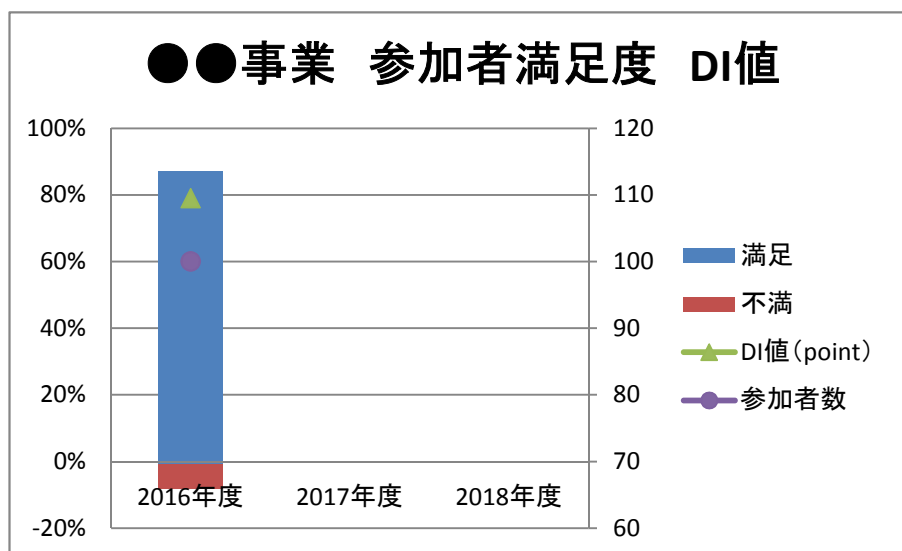
| 学校名                    | 参加者数 | アンケート回答数 | 内訳 |    |    |     |
|------------------------|------|----------|----|----|----|-----|
|                        |      |          | 教員 | 職員 | 学生 | その他 |
| 京都大学                   | 2    | 1        | 1  | 0  | 0  | 0   |
| 京都教育大学                 | 2    | 0        | 0  | 0  | 0  | 0   |
| 京都工芸繊維大学               | 1    | 1        | 1  | 0  | 0  | 0   |
| 京都市立芸術大学               | 2    | 0        | 0  | 0  | 0  | 0   |
| 京都府立大学                 | 2    | 1        | 1  | 0  | 0  | 0   |
| 京都府立医科大学               | 1    | 0        | 0  | 0  | 0  | 0   |
| 池坊短期大学                 | 2    | 0        | 0  | 0  | 0  | 0   |
| 大谷大学・大谷大学短期大学部         | 2    | 0        | 1  | 0  | 0  | 0   |
| 京都医療科学大学               | 1    | 0        | 0  | 0  | 0  | 0   |
| 京都外国語大学・京都外国語短期大学      | 2    | 0        | 0  | 0  | 0  | 0   |
| 京都学園大学                 | 2    | 0        | 0  | 0  | 0  | 0   |
| 京都華頂大学・華頂短期大学          | 1    | 0        | 0  | 0  | 0  | 0   |
| 京都看護大学                 | 2    | 0        | 0  | 0  | 0  | 0   |
| 京都経済短期大学               | 2    | 0        | 0  | 0  | 0  | 0   |
| 京都光華女子大学・京都光華女子大学短期大学部 | 1    | 0        | 0  | 0  | 0  | 0   |
| 京都嵯峨芸術大学・京都嵯峨芸術大学短期大学部 | 2    | 0        | 0  | 0  | 0  | 0   |
| 京都産業大学                 | 2    | 2        | 0  | 2  | 0  | 0   |
| 京都女子大学・京都女子大学短期大学部     | 1    | 0        | 0  | 0  | 0  | 0   |
| 京都精華大学                 | 3    | 0        | 0  | 0  | 0  | 0   |
| 京都西山短期大学               | 2    | 0        | 0  | 0  | 0  | 0   |
| 京都聖母女学院短期大学            | 1    | 0        | 0  | 0  | 0  | 0   |
| 京都造形芸術大学               | 3    | 0        | 0  | 0  | 0  | 0   |
| 京都橘大学                  | 2    | 0        | 0  | 0  | 0  | 0   |
| 京都ノートルダム女子大学           | 1    | 0        | 0  | 0  | 0  | 0   |
| 京都美術工芸大学               | 1    | 0        | 0  | 0  | 0  | 0   |
| 京都文教大学                 | 2    | 0        | 0  | 0  | 0  | 0   |
| 京都文教短期大学               | 1    | 0        | 0  | 0  | 0  | 0   |
| 京都薬科大学                 | 2    | 0        | 0  | 0  | 0  | 0   |
| 種智院大学                  | 2    | 0        | 0  | 0  | 0  | 0   |
| 成安造形大学                 | 1    | 0        | 0  | 0  | 0  | 0   |
| 成美大学・成美大学短期大学部         | 3    | 0        | 0  | 0  | 0  | 0   |
| 同志社大学                  | 5    | 3        | 1  | 2  | 0  | 0   |
| 同志社女子大学                | 1    | 0        | 0  | 0  | 0  | 0   |
| 花園大学                   | 3    | 1        | 0  | 0  | 1  | 0   |
| 佛教大学                   | 2    | 0        | 0  | 0  | 0  | 0   |
| 平安女学院大学・平安女学院大学短期大学部   | 1    | 0        | 0  | 0  | 0  | 0   |
| 明治国際医療大学               | 3    | 0        | 0  | 0  | 0  | 0   |
| 立命館大学                  | 7    | 5        | 0  | 1  | 2  | 2   |
| 龍谷大学・龍谷大学短期大学部         | 4    | 4        | 0  | 2  | 1  | 1   |
| 大阪医科大学                 | 3    | 0        | 0  | 0  | 0  | 0   |
| 京都情報大学院大学              | 2    | 0        | 0  | 0  | 0  | 0   |
| 放送大学・京都学習センター          | 1    | 0        | 0  | 0  | 0  | 0   |
| 加盟大学合計                 | 86   | 18       | 5  | 7  | 4  | 3   |
| 非加盟校合計                 | 10   | 0        | 0  | 0  | 0  | 0   |
| 総合計                    | 96   | 19       | 4  | 7  | 4  | 3   |

## 財団ホームページに掲載する事業データ

<事業概要>（200字程度の事業概要を記載予定）

●●事業は▲▲の問題・課題を見つけ、それを解決するための研究を行う◆◆が日ごろの研究成果を発表する場として、2005年度より始まり、今年で11回目を迎えました。

今年度は、例年の「▲▲政策全般」というテーマに加え、特に、「★★」「○○」をテーマにした発表を募集しました。



<参加者の声>

(例1) シンポジウムが参考になった。

(例2) ●●に興味のある人は参加するべき。

※DI (Diffusion Index) 値とは

「良い／悪い」「上昇／下落」といった定性的な指標を数値化して、単一の値に集約する加工統計手法のこと。または、この方法によって得られた指数をいう。DIは、時系列データであれば値の増加（プラス）／減少（マイナス）、サーベイデータ（アンケートなど）であれば回答を良い／悪いなどの属性に分類し、その属性の個数を集計して全系列数に占める割合などから算出する。

<http://www.itmedia.co.jp/im/articles/0707/09/news108.html>

